

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年7月30日
【事業年度】	第72期(自平成26年5月1日至平成27年4月30日)
【会社名】	新潟運輸株式会社
【英訳名】	Niigata Unyu Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役統括会長 佐藤 実
【本店の所在の場所】	新潟市中央区女池北一丁目1番1号
【電話番号】	新潟 025(285)0001
【事務連絡者氏名】	経理部長代理 窪田 勝己
【最寄りの連絡場所】	新潟市中央区女池北一丁目1番1号
【電話番号】	新潟 025(285)0001
【事務連絡者氏名】	経理部長代理 窪田 勝己
【縦覧に供する場所】	該当なし

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	平成23年4月	平成24年4月	平成25年4月	平成26年4月	平成27年4月
営業収益 (千円)	51,381,282	52,098,848	51,501,881	54,023,156	55,279,662
経常利益 (千円)	692,733	698,299	342,053	706,677	1,042,500
当期純利益 (千円)	291,618	332,241	91,606	269,848	2,323,431
包括利益 (千円)	211,439	444,276	389,419	323,646	2,481,676
純資産額 (千円)	9,473,040	9,827,454	10,163,415	9,774,671	12,426,536
総資産額 (千円)	41,360,070	41,333,749	40,231,463	41,101,447	43,756,568
1株当たり純資産額 (円)	524.71	545.50	564.66	537.95	698.10
1株当たり当期純利益 (円)	18.00	20.51	5.65	16.66	143.46
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	20.55	21.37	22.73	21.19	25.83
自己資本利益率 (%)	3.46	3.83	1.02	3.02	23.21
株価収益率 (倍)					
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,462,822	2,254,579	1,859,684	2,298,426	3,042,576
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	507,625	495,055	56,069	323,847	1,490,949
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,188,584	1,737,547	1,773,981	1,649,681	1,340,287
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	676,894	698,870	728,503	1,053,400	1,264,740
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	3,622 (391)	3,551 (436)	3,488 (471)	3,481 (485)	3,513 (502)

(注) 1 営業収益には消費税等は含まれておりません。

2 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社株式は非上場のため、「株価収益率」については記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	平成23年4月	平成24年4月	平成25年4月	平成26年4月	平成27年4月
営業収益 (千円)	47,786,976	48,600,531	48,144,868	50,617,715	52,007,547
経常利益 (千円)	623,071	513,843	207,820	543,813	827,009
当期純利益 (千円)	247,632	266,666	20,407	207,883	2,207,761
資本金 (千円)	810,000	810,000	810,000	810,000	81,000
発行済株式総数 (株)	16,200,000	16,200,000	16,200,000	16,200,000	16,200,000
純資産額 (千円)	6,784,158	7,084,740	7,322,822	7,465,209	9,715,540
総資産額 (千円)	36,038,119	35,941,250	34,948,223	35,668,909	37,871,535
1株当たり純資産額 (円)	418.77	437.32	452.02	460.81	599.72
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	3 ( )	3 ( )	4 ( )	3 ( )	3 ( )
1株当たり当期純利益 (円)	15.28	16.46	1.25	12.83	136.28
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	18.83	19.71	20.95	20.93	25.65
自己資本利益率 (%)	3.67	3.85	0.28	2.81	25.70
株価収益率 (倍)					
配当性向 (%)	19.63	18.22	317.53	23.38	2.20
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	3,096 (363)	3,053 (392)	3,021 (406)	3,016 (423)	3,042 (446)

- (注) 1 営業収益には消費税等は含まれておりません。  
2 第70期の1株当たり配当額4円には、創立70周年記念配当1円を含んでおります。  
3 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
4 当社株式は非上場のため、「株価収益率」については記載しておりません。

## 2 【沿革】

昭和18年10月	企業合同により新潟県新潟市、西蒲原郡、中蒲原郡、東蒲原郡地域のトラック運送業者が統合して新潟地区貨物自動車(株)を設立、車両172両。
昭和21年11月	商号を新潟自動車(株)に変更。
昭和24年3月	企業分割により西蒲原郡地区、中蒲原郡の一部及び東蒲原郡地区を他社へ、新潟市及び中蒲原郡地区を当社にと3分割。
昭和24年8月	通運事業の免許を受け、通運事業部門を設置。商号を新潟運輸(株)に変更。
昭和31年2月	商号を新潟運輸建設(株)に変更。
昭和36年3月	関東、中部、関西、東北、信州地区の営業を分離独立させ、新たに日本新潟運輸(株)を設立。同社は昭和47年6月、新潟運輸倉庫(株)に商号を変更。
昭和37年8月	仙塩トラック運送(株)(現・東北新潟運輸(株))を設立。
昭和40年8月	長岡運輸(株)の株式取得。
昭和40年9月	新潟市女池に本社移転。
昭和41年5月	新潟糧運(株)(現・新潟トラック運送(株))の株式取得。
昭和48年3月	利用航空運送事業の免許を得る。
昭和52年10月	上越運送(株)の株式取得。
昭和55年12月	通運事業部門を分離独立させ、新潟通運(株)を設立。
昭和59年8月	商号を新潟運輸(株)に変更。
昭和60年12月	新潟運輸倉庫(株)を吸収合併。
平成元年4月	新潟市流通センター内に新潟支店を移転。
平成4年5月	倉庫部門を一部分離独立させ、エヌ・ユ - 総合物流(株)を設立。
平成5年3月	通関業の許可を受け通関業務を開始。
平成7年7月	警備業の認定を受け警備事業を開始。
平成10年9月	物品販売事業を開始。
平成12年9月	メディカル事業部とリサイクル事業部を設置。
平成13年10月	東港物流センターにおいてISO9002を取得。
平成14年10月	東港物流センターにおいてISO9001:2000を改定取得、本社及び安中支店においてISO9001:2000を取得。
平成23年3月	上海駐在員事務所を開設。

## 3 【事業の内容】

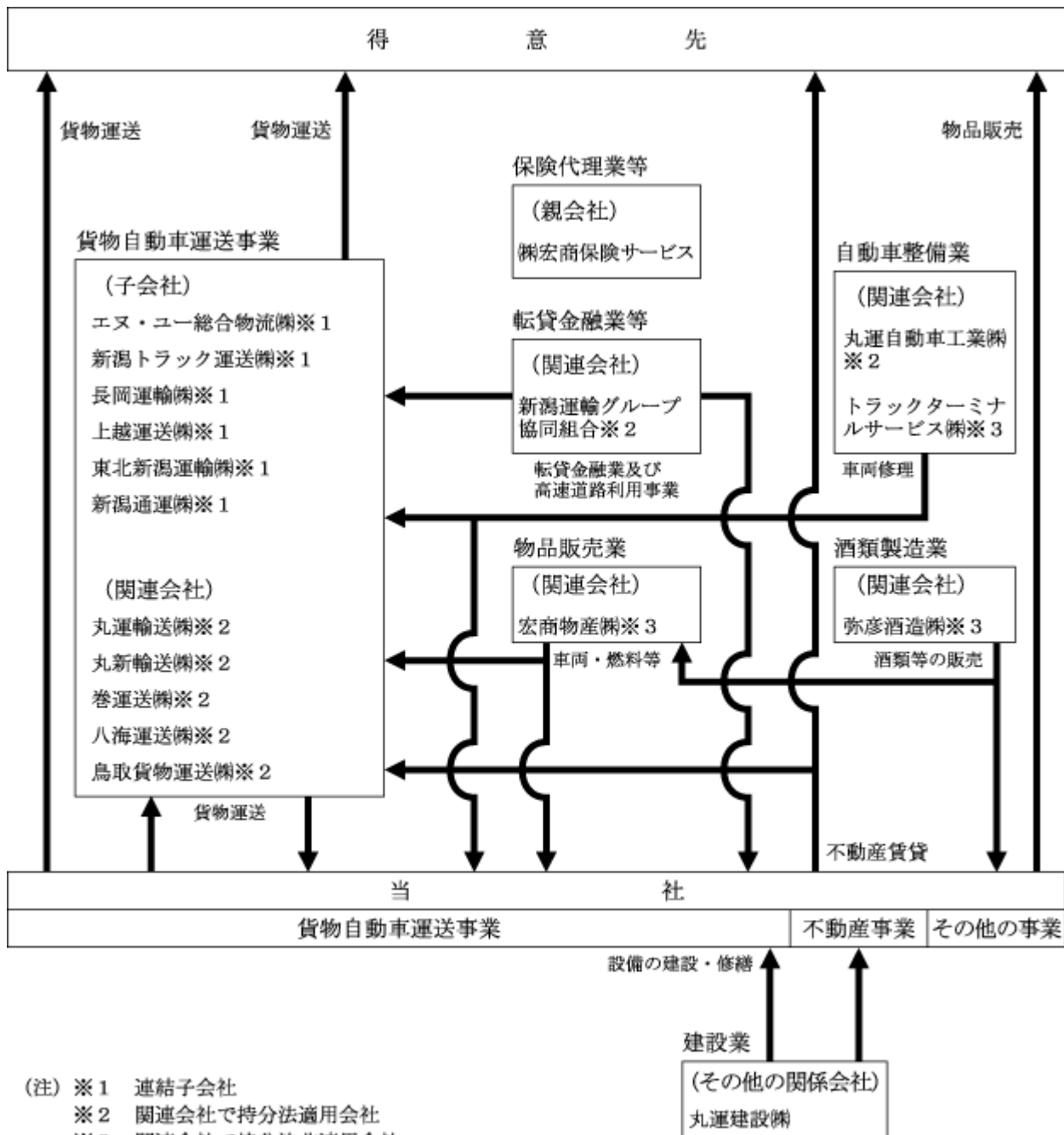
当グループは、当社、子会社6社、関連会社10社並びに親会社及びその他の関係会社1社で構成しており、貨物自動車運送事業を主体とし、さらに、それに付帯する事業を行い、総合物流事業の展開をはかっております。

当グループの事業に係わる位置付けは次のとおりであります。

当社及び子会社6社並びに関連会社5社が、貨物自動車運送事業を主たる業務として相互に運送業務の委託及び受託を行い、関連会社1社が転貸金融業等、関連会社1社が物品販売業、関連会社2社が自動車整備業、関連会社1社が酒類製造業を行っております。

また、親会社が保険代理業及び燃料販売、その他の関係会社1社が建設業を行っております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



- (注) ※1 連結子会社  
 ※2 関連会社で持分法適用会社  
 ※3 関連会社で持分法非適用会社  
 4 当社及び当社の子会社以外で㈱宏商保険サービスの子会社に該当する会社は丸運建設㈱、丸運輸送㈱、巻運送㈱、鳥取貨物運送㈱、新潟運輸グループ協同組合、丸運自動車工業㈱、トラックターミナルサービス㈱、宏商物産㈱、弥彦酒造㈱であります。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合又は 被所有割合(%)	関係内容
(親会社) ㈱宏商保険サービス	新潟市中央区	10,200	保険代理業及 び燃料販売	被所有 46.0 (42.2) [7.5]	役員の兼任あり
(連結子会社) エヌ・ユー総合物流㈱ (注)3	新潟市中央区	50,000	貨物自動車 運送事業	所有 99.0 [1.0]	当社荷主貨物の運送をしている。 当社へ資金の貸付をしている。 役員の兼任あり 設備の賃貸あり
新潟トラック運送㈱ (注)3	新潟市西区	30,000	貨物自動車 運送事業	所有 59.6 (5.0) [35.7]	当社荷主貨物の運送をしている。 当社へ資金の貸付をしている。 役員の兼任あり
長岡運輸㈱ (注)3	新潟県長岡市	18,000	貨物自動車 運送事業	所有 47.9 [36.2]	当社荷主貨物の運送をしている。 当社より債務保証を受けている。 当社へ資金の貸付をしている。 役員の兼任あり
上越運送㈱ (注)3	新潟県上越市	85,000	貨物自動車 運送事業	所有 47.5 (2.3) [11.0]	当社荷主貨物の運送をしている。 当社より債務保証を受けている。 役員の兼任あり
東北新潟運輸㈱ (注)3	仙台市宮城野区	22,500	貨物自動車 運送事業	所有 66.6 [33.3]	当社荷主貨物の運送をしている。 役員の兼任あり 設備の賃貸借あり
新潟通運㈱ (注)3	新潟市東区	30,000	貨物自動車 運送事業	所有 50.0 [50.0]	当社荷主貨物の運送をしている。 当社より債務保証を受けている。 当社へ資金の貸付をしている。 役員の兼任あり 設備の賃貸借あり
(持分法適用関連会社) 丸運輸送㈱	新潟市西区	67,200	貨物自動車 運送事業	所有 32.9 (5.9) [67.0]	当社荷主貨物の運送をしている。 役員の兼任あり 設備の賃貸借あり
丸新輸送㈱	新潟県阿賀野市	37,000	貨物自動車 運送事業	所有 49.1	当社荷主貨物の運送をしている。 役員の兼任あり
巻運送㈱	新潟県燕市	48,000	貨物自動車 運送事業	所有 24.1 (4.1) [74.5] 被所有 0.1	当社荷主貨物の運送をしている。 当社より債務保証を受けている。 役員の兼任あり
八海運送㈱	新潟県南魚沼市	10,000	貨物自動車 運送事業	所有 50.0	当社荷主貨物の運送をしている。 役員の兼任あり
丸運自動車工業㈱	新潟市西区	50,000	自動車整備業	所有 29.5 (8.4) [67.0]	当社車両の修理をしている。 役員の兼任あり 設備の賃貸あり
鳥取貨物運送㈱	鳥取県鳥取市	30,000	貨物自動車 運送事業	所有 36.6 [63.3]	当社荷主貨物の運送をしている。 役員の兼任あり 設備の賃貸あり
新潟運輸グループ協同組合	新潟市中央区	9,700	転貸金融業	所有 21.8 (18.7) [78.1]	当社、関係会社の転貸金融業及び 高速道路利用事業 当社より債務保証を受けている。 当社へ資金の貸付をしている。 役員の兼任あり
(その他の関係会社) 丸運建設㈱	新潟市中央区	95,000	建設業	所有 3.3 (2.3) [57.9] 被所有 17.1	建設業務を委託している。 当社へ資金の貸付をしている。 役員の兼任あり 設備の賃貸あり

- (注) 1 議決権の所有割合又は被所有割合の( )は、間接所有割合で内数であります。  
2 議決権の所有割合又は被所有割合の[ ]は、緊密な者等の所有割合であります。なお、その議決権は、親会社である㈱宏商保険サービスグループが所有しており、当社による実質的支配力は及んでおりません。  
3 特定子会社であります。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社における状況

平成27年4月30日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
貨物自動車運送事業	3,395 (494)
不動産事業	2 ( )
その他の事業	2 (3)
全社(共通)	114 (5)
合計	3,513 (502)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は( )内に年間平均人員を外書で記載しております。  
 2 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成27年4月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
3,042 (446)	46.7	16.7	3,891

セグメントの名称	従業員数(名)
貨物自動車運送事業	2,958 (440)
不動産事業	2 ( )
その他の事業	2 (3)
全社(共通)	80 (3)
合計	3,042 (446)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は( )内に年間平均人員を外書で記載しております。  
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 3 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

### (3) 労働組合の状況

提出会社従業員は、全新潟運輸労働組合(平成25年3月結成、全日本運輸産業労働組合連合会に所属、平成27年4月30日現在組合員2,136名)を結成しております。

なお、エヌ・ユー・ジー労働組合(昭和20年12月結成)と新潟丸運労働組合(昭和49年12月結成)は、平成25年3月に統合し、全新潟運輸労働組合が結成されております。

連結子会社における労働組合は、6社全社が結成しており、労使関係は総じて円満で特記すべきことはありません。

なお、連結子会社における当連結会計年度末の組合員数は219名であります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和策などにより、企業収益においては改善が進み、設備投資の増加や雇用環境に改善が見られ、緩やかな回復傾向となりました。しかし、消費税増税による個人消費低迷の長期化や、円安による輸入原材料高騰に伴う物価上昇により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

運輸業界におきましても、前年度の駆け込み需要の反動減に加え、夏場の天候不順や、円安による物価上昇のため個人消費が停滞するなど、国内貨物輸送量は減少傾向で推移しました。一方経費は、昨年秋以降からの原油価格の急落で、燃料費は値下がりしたものの、慢性的なドライバー不足や同業者間の価格競争により、主要経費である人件費や備車料などの運送諸経費の高騰が収支を圧迫し、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）は、平成26年度を初年度とする中期経営計画「CHANGE 変革への3ヶ年 ～目指せ！骨太企業～」をスタートさせ、抜本的な経営改革に着手致しました。具体的な経営戦略として、収益力の強化 収支管理の強化 情報システムの強化 ロジスティクス事業の強化 組織の活性化と人材育成を掲げ、これら各施策のPDCAサイクルを確実に回し、実行して参りました。また、この中期経営計画を踏まえた平成26年度の営業方針は、適正運賃収受による収益力の強化と輸送品質の向上を最重要取組施策として、採算性を重視し、量より質への転換を図って参りました。

この結果、当連結会計年度の営業収益は55,279,662千円（前年同期比2.3%増）、営業利益915,625千円（前年同期比51.4%増）、経常利益1,042,500千円（前年同期比47.5%増）、当期純利益2,323,431千円（前年同期比761.0%増）となり、増収増益の結果となりました。

セグメントの営業収益については、貨物自動車運送事業が54,377,859千円（前年同期比2.2%増）となり、不動産事業が596,693千円（前年同期比11.7%増）、その他の事業が305,110千円（前年同期比11.1%増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動の結果得られた資金が3,042,576千円、投資活動の結果使用した資金が1,490,949千円、財務活動の結果使用した資金が1,340,287千円となり、この結果、前連結会計年度末に比べ211,339千円増加し、当連結会計年度末には1,264,740千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は3,042,576千円（前年同期比32.4%増）となりました。

これは主に税金等調整前当期純利益を971,854千円（前年同期比12.3%増）計上したこと、減価償却費が1,667,896千円（前年同期比12.9%増）発生したこと等による増加要因に対して、売上債権が174,428千円（前年同期比69.3%減）増加したこと、利息の支払額が146,347千円（前年同期比7.3%減）発生したこと及び、法人税等の支払額が618,620千円（前年同期比66.8%増）発生したこと等による減少要因によるものです。



(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1,490,949千円(前年同期比360.4%増)となりました。

これは主に車両代替え等の設備投資により1,666,850千円(前年同期比238.8%増)の支出があったこと及び、投資有価証券の取得による支出が27,544千円(前年同期比67.5%減)あった一方で、設備投資等の売却により194,734千円(前年同期比516.8%増)の収入があったこと及び、貸付金の減少額が64,676千円(前年同期比35.4%減)あったこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1,340,287千円(前年同期比18.8%減)となりました。

これは主に社債の発行による収入が1,300,000千円あった一方で、社債の償還による支出が310,000千円(前年同期比72.2%増)あったこと、リース債務の返済による支出が772,138千円(前年同期比14.3%増)あったこと及び、借入金の減少額1,505,223千円(前年同期比107.7%増)があったこと等によるものです。

2 【営業の状況】

当連結会計年度の営業収益をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント	当連結会計年度 (平成26年5月1日 平成27年4月30日)	
	営業収益(千円)	前年同期比(%)
貨物自動車運送事業	54,377,859	+2.2
不動産事業	596,693	+11.7
その他の事業	305,110	+11.1
合計	55,279,662	+2.3

(注) 上記の営業収益には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

今後の経済の見通しにつきましては、政府の経済政策などにより、企業収益においては改善が進み、雇用環境も改善され、緩やかに回復基調で推移するものと予想されます。しかしながら、海外経済の下振れによる輸出の鈍化や、個人消費低迷の長期化など、懸念材料もあり、先行きに不透明感も残されています。

運輸業界におきましても、貨物輸送量は減少傾向で推移しており、また、深刻化するドライバー不足や外注費の高騰などの諸問題を抱え、更に、原油価格下落に歯止めがかかり価格上昇も懸念されることから、厳しい経営環境が続くものと予想されます。

このような経営環境のもと、中期経営計画は2年目となり、進捗管理の徹底を更に強化し、各施策を着実に実行して参ります。また、平成27年度の営業方針として、引続き収益力の強化と輸送品質の向上を重要施策として掲げ、取組強化を図って参ります。なお、収益力の強化では、適正運賃収受を更に推進するとともに、集配・運行効率向上を目指した適正貨物量も確保して参ります。輸送品質の向上では、「ヒューマンエラー」を防止し自動車事故の更なる減少を目指すとともに、「作業の正確性」をキーワードに商品事故半減に再挑戦致します。

#### 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、当社グループの経営成績等に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）が判断したものであります。

##### （１）運輸事業の法的規制等

貨物自動車運送事業及び貨物利用運送事業は、それぞれ「貨物自動車運送事業法」及び「貨物利用運送事業法」の規制を受けております。この他、当社グループの業務については、倉庫業、通関業、航空運送代理店業等の事業に関する法令などにより規制されております。法令遵守の徹底を図っておりますが、万一これらの法令等が遵守できなかったときや、悪質な交通違反があった場合には、業務の一部に法的規制が課され、業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### （２）車両事故・商品事故

「安全は全てに優先する」を基本理念とし、安全対策と事故防止に全力を挙げて取り組んでおりますが、重大な車両事故や商品事故が発生した場合には、損害賠償の他、車両の使用停止などの行政処分により業績に影響を与える可能性があります。

##### （３）環境問題による公的規制

近年、環境問題への関心が高まる中、排気ガス規制等が強化されてきました。当社グループの運輸事業においてはCNG車をはじめ低公害車両を積極的に導入し、環境対策に取り組んでおりますが、想定を上回る環境規制が実施された場合、設備投資等の増大により今後の事業活動に大きな影響を及ぼす可能性があります。

##### （４）燃料費の上昇

当社グループの運輸事業は、多量の燃料を使用していることから、原油価格の動向などによっては燃料費が大幅に上昇する恐れがあり、その場合は輸送コストアップにより業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### （５）顧客情報の管理

当社グループは事業の特性上、貨物輸送などに関するお客様の情報を取り扱っております。当該情報の取り扱いについては社内教育を行うなど適正な管理に努めております。

万一、管理の不徹底などにより情報の漏洩が発生した場合には、社会的な信用の低下を招くだけでなく、損害賠償請求の発生などにつながり、業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

##### （６）災害の発生

地震・台風・豪雨・豪雪等の大規模な自然災害が発生した場合、設備の損壊・輸送経路の遮断・電力供給停止等により、設備の復旧・代替輸送の確保・システム停止等で費用が増加し、車両による商品の輸送が主要業務の運輸事業を中心として業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析は、以下の通りです。

### (1) 財政状態の分析

#### (流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は、11,503,975千円（前連結会計年度末11,101,523千円）となり、402,451千円増加しました。これは現金及び預金が211,339千円増加（前連結会計年度末1,053,400千円、当連結会計年度末1,264,740千円）、受取手形及び営業未収金が162,928千円増加（前連結会計年度末9,110,804千円、当連結会計年度末9,273,733千円）したことが主な要因であります。

#### (固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は、32,252,592千円（前連結会計年度末29,999,923千円）となり、2,252,668千円増加しました。これは建物及びリース資産の取得等により有形固定資産が1,110,326千円増加（前連結会計年度末26,166,809千円、当連結会計年度末27,277,135千円）したこと、投資有価証券が535,081千円増加（前連結会計年度末2,334,336千円、当連結会計年度末2,869,417千円）したこと、繰延税金資産が541,882千円増加（前連結会計年度末43,557千円、当連結会計年度末585,439千円）したことが主な要因であります。

#### (流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は、17,293,197千円（前連結会計年度末17,801,109千円）となり、507,912千円減少しました。これは短期借入金が1,653,874千円減少（前連結会計年度末8,390,627千円、当連結会計年度末6,736,753千円）した一方で、一年内償還社債が260,000千円増加（前連結会計年度末180,000千円、当連結会計年度末440,000千円）、賞与引当金が205,700千円増加（前連結会計年度末599,430千円、当連結会計年度末805,130千円）、リース債務が199,572千円増加（前連結会計年度末624,862千円、当連結会計年度末824,435千円）したことが主な要因であります。

#### (固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は、14,036,834千円（前連結会計年度末13,525,665千円）となり、511,168千円増加しました。これは社債が730,000千円増加（前連結会計年度末420,000千円、当連結会計年度末1,150,000千円）、長期借入金が148,651千円増加（前連結会計年度末3,984,509千円、当連結会計年度末4,133,160千円）、リース債務が233,829千円増加（前連結会計年度末1,362,612千円、当連結会計年度末1,596,442千円）、退職給付に係る負債が587,925千円増加（前連結会計年度末5,813,189千円、当連結会計年度末6,401,115千円）した一方で、繰延税金負債が1,306,082千円減少（前連結会計年度末1,434,906千円、当連結会計年度末128,823千円）したことが主な要因であります。

#### (純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は、12,426,536千円（前連結会計年度末9,774,671千円）となり、2,651,864千円増加しました。これは利益剰余金が2,059,783千円増加（前連結会計年度末8,218,220千円、当連結会計年度末10,278,004千円）、その他有価証券評価差額金が310,276千円増加（前連結会計年度末313,418千円、当連結会計年度末623,695千円）、退職給付に係る調整累計額が223,687千円増加（前連結会計年度末 642,801千円、当連結会計年度末 419,113千円）したことが主な要因であります。

### (2) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析については「1.業績等の概要(2)キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

### (3) 経営成績の分析

当連結会計年度における営業収益は、55,279,662千円となり、前連結会計年度に比べ1,256,506千円増加（前年同期比2.3%増）となりました。営業原価も、人件費の増加及び運送諸経費の増加等の要因により53,277,500千円となり、前連結会計年度に比べ1,027,453千円増加（前年同期比2.0%増）しました。

販売費及び一般管理費については事業税等の減少により1,086,536千円となり、前連結会計年度に比べ81,611千円減少（前年同期比7.0%減）しました。この結果当連結会計年度における営業利益は915,625千円となり前連結会計年度に比べ310,664千円増加（前年同期比51.4%増）しました。

営業外損益では持分法による投資利益が増加したこと、支払利息が減少したこと等により当連結会計年度における経常利益は1,042,500千円となり前連結会計年度に比べ335,822千円増加（前年同期比47.5%増）しました。

特別損益では前年同期に発生した固定資産受贈益が今期はなかったこと、車両等による固定資産売却益の増加、固定資産売却損の増加、投資有価証券売却損の減少等がありました。

また、法人税・住民税及び事業税及び法人税等調整額が減少した一方で、少数株主利益が増加しました。

この結果当期純利益は2,323,431千円となり前連結会計年度に比べ2,053,582千円増加（前年同期比761.0%増）しました。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、多様化する顧客の需要動向への対応と高品質な輸送サービスを提供するため、貨物自動車運送事業を主体とした設備投資を実施しております。

当連結会計年度の当社グループ（当社及び連結子会社）全体の設備投資額は3,020,186千円であり、セグメント別の設備投資について示すと、次のとおりであります。

##### 貨物自動車運送事業

当連結会計年度の設備投資額は1,842,009千円となりました。主な内訳は、リース資産の取得1,206,040千円であります。

なお、営業に重要な影響を及ぼすような固定資産の売却、滅失はありません。

##### 不動産事業

当連結会計年度の設備投資額は1,140,946千円となりました。主な内訳は、賃貸用の倉庫新築1,125,725千円であります。

なお、営業に重要な影響を及ぼすような固定資産の売却、滅失はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)における主な設備は以下のとおりであります。

### (1) 提出会社

平成27年4月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	車両 運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
本社 (新潟市中央区)		統括業務 施設	55,705	1,521	5,216 (1,634)		43,198	105,641	84
新潟支店 (新潟市西区)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	208,902	4,255	1,219,321 (52,287)	179,700	17,983	1,630,163	207
長岡支店 (新潟県長岡市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	31,996	12,494	200,405 (15,517)	48,319	3,555	296,770	89
長野支店 (長野県長野市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	85,846	730	1,108,506 (14,955)	34,875	3,461	1,233,421	44
東京支店 (東京都江東区)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	161,398	5,752	1,210,437 (11,904)	37,734	10,121	1,425,444	84
横浜旭支店 (横浜市旭区)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	10,161	617	( ) [10,047]	28,191	4,947	43,918	49
上尾支店 (埼玉県蓮田市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	90,637	730	623,516 (9,923) [1,081]	33,118	3,683	751,686	54
大阪支店 (大阪府東大阪市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	20,474	22,627	32,170 (576) [10,187]	80,940	6,755	162,968	101
金沢支店 (石川県野々市 市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	24,460	396	196,416 (11,500) [ ]	46,272	2,823	270,368	48
福井支店 (福井県福井市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	23,530	262	( ) [9,214]	35,395	2,260	61,449	37
名古屋支店 (名古屋市港区)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	38,643	1,569	586,333 (9,408) [1,533]	10,924	4,096	641,567	47
春日井支店 (愛知県春日井 市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	57,694	2,548	624,288 (11,817) [1,021]	3,439	4,692	692,663	55
仙台支店 (仙台市宮城野 区)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	6,536	10,518	( ) [11,122]	71,448	4,364	92,868	86
盛岡支店 (岩手県紫波郡 矢巾町)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	56,594	521	370,221 (12,689) [3,220]	94,098	1,796	523,232	55
郡山支店 (福島県郡山市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	1,052	9,257	( ) [8,707]	28,021	2,283	40,614	52
東京物流セン ター (東京都江東区)	不動産事 業	賃貸設備	795,990		1,714,209 (9,917) [ ]		1,175	2,511,375	
長岡パークタ ウン稲穂倉庫 (新潟県長岡市)	不動産事 業	賃貸設備	1,071,112		184,047 (12,416) [ ]			1,255,160	

(2) 国内子会社

平成27年4月30日現在

会社名 事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	車両 運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
新潟トラック運 送株 本社 (新潟市西区)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	8,703	13,264	126,057 (4,618) [ ]	3,024	321	151,372	54
長岡運輸株 本社 (新潟県長岡市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	19,422	0	83,921 (6,394) [ ]		507	103,852	6
上越運送株 本社 (新潟県上越市)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備	484,823	42,350	839,841 (42,064) [ ]	21,923	3,460	1,392,399	84
東北新潟運輸株 本社 (仙台市宮城野 区)	貨物自動 車運送事 業	貨物運送 設備		9,663	( ) [6,202]	28,867	60	38,592	65

- (注) 1 帳簿価額には消費税等は含んでおりません。  
2 帳簿価額の「その他」は、機械装置及び工具器具備品の合計であります。  
3 土地の( )内は、所有する土地の面積であります。  
4 土地の[ ]内は、連結会社以外から賃借している面積であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額(千円)		資金調達 方法	着手 年月	完了予定 年月
				総額	既支払額			
新潟運輸株		貨物自動車 運送事業	車両	1,355,300		自己資金、借 入金、割賦及 びファイナ ンス・リース	平成27年5月	平成28年4月

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,800,000
計	64,800,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年7月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,200,000	同左	非上場・非登録	(注)1、2
計	16,200,000	同左		

(注) 1 単元株制度を採用していません。

2 当社の株式の譲渡については、取締役会の承認を要する旨を定款に定めております。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年9月30日(注)		16,200	729,000	81,000		13,629

(注) 会社法第447条第1項の規定に基づき、資本金を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。

#### (6) 【所有者別状況】

平成27年4月30日現在

区分	株式の状況							
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計
					個人以外	個人		
株主数 (人)		2		98			784	884
所有株式数 (株)		960,030		12,612,645			2,627,325	16,200,000
発行済株式 総数に対す る割合(%)		5.93		77.85			16.22	100



(7) 【大株主の状況】

平成27年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
丸運建設株式会社	新潟市中央区幸西1丁目4番21号	2,780	17.16
株式会社新潟中央自動車学校	新潟市中央区鏡2丁目1番27号	1,692	10.45
宏商物産株式会社	新潟市西区流通センター2丁目1番地3	1,517	9.37
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	810	5.00
株式会社ブリヂストン	東京都中央区京橋3丁目1番1号	771	4.76
株式会社宏商保険サービス	新潟市中央区鏡2丁目1番27号	622	3.84
いすゞ自動車株式会社	東京都品川区南大井6丁目26番1号	600	3.71
横浜ゴム株式会社	東京都港区新橋5丁目36番11号	600	3.70
UDトラック株式会社	埼玉県上尾市大字壺丁目1番地	390	2.41
JX日鉱日石エネルギー株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6番3号	360	2.22
計		10,144	62.62

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,200,000	16,200,000	
発行済株式総数	16,200,000		
総株主の議決権		16,200,000	

【自己株式等】

平成27年4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

## 3 【配当政策】

当社は、公共性の高い運輸事業として、長期的、安定的な経営基盤の確立をはかるとともに、株主の皆様に適正な配当を継続して行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としており、配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記の基本方針により、1株当たり3円とさせていただきます。

また、内部留保資金につきましては、営業拠点の施設拡充及び整備等に活用し、今後の事業展開をはかっていく所存であります。

(注)基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額	1株当たり配当額
平成27年7月29日 定時株主総会決議	48,600千円	3円

## 4 【株価の推移】

当社の株式は非上場で、かつ店頭売買登録もしておらず、又、気配相場もありません。

5 【役員 の 状 況】

男性19名 女性-名 (役員のうち女性の比率-%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 統括会長		佐藤 実	昭和24年7月27日生	昭和50年1月 昭和60年1月 昭和61年7月 昭和62年7月 平成元年10月 平成16年7月 (主要な兼職) 昭和58年1月 平成元年8月 平成元年10月 平成12年6月 平成22年6月 平成25年6月 平成25年6月 平成25年6月 平成25年6月	丸運建設㈱常務取締役就任 丸運建設㈱代表取締役副社長に就任 当社取締役就任 当社代表取締役副社長に就任 当社代表取締役会長に就任 当社代表取締役統括会長に就任(現任) ㈱新潟中央自動車学校代表取締役 丸運建設㈱代表取締役会長 新潟通運㈱代表取締役会長 東北新潟運輸㈱代表取締役会長 宏商物産㈱代表取締役会長 エヌ・ユー総合物流㈱代表取締役会長 新潟トラック運送㈱代表取締役会長 長岡運輸㈱代表取締役会長 上越運送㈱代表取締役会長	注1	70
代表取締役 社長		山田 博義	昭和21年2月23日生	昭和43年3月 平成元年10月 平成3年10月 平成6年4月 平成6年7月 平成10年7月 平成13年7月 平成15年7月 平成16年7月 平成20年7月 (主要な兼職) 平成19年5月	当社入社 当社システム開発部長兼営業開発部次長 エヌ・ユー情報サービス㈱取締役就任 当社東海主管支店長 当社取締役就任 当社常務取締役に就任 当社専務取締役に就任 当社代表取締役副社長に就任 当社代表取締役社長に就任(現任) 当社営業本部長 八海運送㈱代表取締役	注1	28
代表取締役 副社長	会長室長	佐藤 肇	昭和54年4月2日生	平成11年4月 平成18年6月 平成19年1月 平成19年7月 平成19年7月 平成22年7月 平成22年7月 平成23年3月 (主要な兼職) 平成18年6月 平成21年12月 平成26年12月 平成27年3月 平成27年3月 平成27年3月	㈱宏商保険サービス取締役に就任 丸運輸送㈱取締役に就任(現任) 丸運建設㈱取締役に就任(現任) 当社取締役に就任 当社会長室長、グループ統括担当 当社代表取締役専務に就任 当社会長室長(現任) ㈱新潟ドライビングスクール(現・㈱新潟自動車学校)取締役に就任(現任) 当社代表取締役副社長に就任(現任) 宏商物産㈱代表取締役社長 エヌ・ユー情報サービス㈱代表取締役社長 ㈱宏商保険サービス代表取締役副社長 ㈱新潟中央自動車学校代表取締役副社長 ㈱巻中央自動車学校代表取締役副社長 ㈱アブミーアベニュー代表取締役副社長	注1	290

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 副社長	管理本部長	坂 上 昭	昭和29年4月3日生	昭和52年4月 ㈱第四銀行入行 平成17年3月 同行金融サービス部長 平成18年6月 同行営業統括部長 平成20年4月 同行執行役員、三条営業本部長兼三条支店長 委嘱 平成21年6月 同行執行役員、三条ブロック営業本部長兼三 条支店長委嘱 平成22年4月 同行執行役員、県央東ブロック営業本部長兼 三条支店長委嘱 平成22年6月 同行執行役員、上越ブロック営業本部長兼高 田営業部長兼本町出張所長委嘱 平成24年6月 同行常務取締役に就任、長岡ブロック営業本 部長委嘱 平成26年6月 当社管理本部長(現任) 平成26年7月 当社代表取締役専務に就任 平成27年7月 当社代表取締役副社長に就任(現任)	注1	
専務取締役	営業本部長	高 桑 伸 一	昭和22年9月3日生	昭和45年3月 当社入社 平成2年1月 当社三条支店長 平成9年2月 当社新潟支店長 平成12年2月 当社新潟長野統括長 平成14年7月 当社取締役に就任 平成18年2月 当社営業部長 平成20年7月 当社常務取締役に就任 平成20年7月 当社営業本部副本部長 平成22年7月 当社専務取締役に就任(現任) 平成22年7月 当社営業本部長(現任)	注1	
専務取締役	関東担当	中 篤 圭 三	昭和27年3月7日生	昭和49年4月 伊藤忠商事㈱入社 平成15年4月 同社新潟支店長 平成20年6月 伊藤忠メタルズ㈱常勤監査役に就任 平成24年7月 丸運建設㈱専務取締役に就任(現任) 平成24年7月 当社取締役に就任 平成26年7月 当社専務取締役に就任(現任) 平成26年7月 当社関東担当(現任) (主要な兼職) 平成24年6月 東京トラック運送㈱代表取締役会長 平成27年6月 エヌ・ユー城南物流㈱代表取締役会長	注1	
専務取締役	総合企画本 部長、グ ループ統括 担当兼人事 担当	佐 藤 朋 弥	昭和60年11月1日生	平成21年12月 ㈱宏商保険サービス取締役に就任 平成22年7月 当社取締役に就任 平成22年7月 当社グループ統括担当 平成24年7月 当社常務取締役に就任 平成25年7月 当社総合企画本部長、グループ統括担当 平成26年7月 当社総合企画本部長、グループ統括担当兼人 事担当(現任) 平成26年12月 ㈱宏商保険サービス専務取締役に就任(現任) 平成27年3月 ㈱新潟中央自動車学校専務取締役に就任(現 任) 平成27年3月 ㈱巻中央自動車学校専務取締役に就任(現任) 平成27年3月 ㈱アブミーアベニュー専務取締役に就任(現 任) 平成27年6月 丸運自動車工業㈱専務取締役に就任(現任) 平成27年6月 宏商物産㈱専務取締役に就任(現任) 平成27年6月 日の出交通㈱専務取締役に就任(現任) 平成27年7月 当社専務取締役に就任(現任) (主要な兼職) 平成27年1月 丸運建設㈱代表取締役専務 平成27年3月 ㈱新潟自動車学校代表取締役専務	注1	288

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	関西北陸、 東海担当	田 邊 重 和	昭和27年 8 月 1 日生	昭和50年 6 月 当社入社 平成元年 5 月 当社沼津支店長 平成 8 年11月 当社板橋支店長 平成12年 2 月 当社東京支店長 平成16年 4 月 当社関東営業本部営業部長 平成18年 2 月 当社新潟長野統括長 平成20年 7 月 当社取締役に就任 平成21年 5 月 当社東海統括長 平成22年 2 月 当社関東統括長 平成24年 6 月 当社関西北陸、東海担当(現任) 平成24年 7 月 当社常務取締役に就任(現任)	注 1	
常務取締役	営業本部 副本部長 兼新潟長野 統括長	坂 井 操	昭和36年 2 月 6 日生	昭和54年 3 月 当社入社 平成 8 年 2 月 当社見附支店長 平成10年 2 月 当社厚木支店長 平成14年 2 月 当社三条支店長 平成20年 2 月 当社仙台支店長 平成21年 5 月 当社東北統括長 平成24年 6 月 当社新潟長野統括長 平成24年 7 月 当社取締役に就任 平成27年 5 月 当社常務取締役に就任(現任) 平成27年 5 月 当社営業本部副本部長兼新潟長野統括長(現任)	注 1	
取締役	グループ統 括室長兼監 査部長	小 林 憲 一	昭和25年 8 月 1 日生	昭和49年 4 月 商工組合中央金庫入庫 平成 7 年 7 月 同庫八王子支店長 平成11年 3 月 同庫業務推進部支店部長 平成13年 3 月 同庫神戸支店長 平成15年 3 月 同庫検査部長 平成16年 4 月 当社監査部長 平成18年 7 月 当社取締役に就任(現任) 平成25年 5 月 当社グループ統括室長兼監査部長(現任) (主要な兼職) 平成19年 5 月 ㈱アブミーアベニュー代表取締役社長	注 1	
取締役	安全部長兼 品質推進部 長兼関連事 業部長	牧 野 浩 之	昭和35年 6 月 8 日生	昭和59年 3 月 当社入社 平成10年 2 月 当社社会津若松支店長 平成22年 2 月 当社東海統括長 平成24年 2 月 当社営業部長 平成24年 7 月 当社取締役に就任(現任) 平成26年 2 月 当社安全部長兼品質推進部長兼関連事業部長(現任)	注 1	
取締役	関西北陸統 括長	足 立 茂	昭和30年 3 月19日生	昭和49年12月 当社入社 平成11年 2 月 当社泉南支店長 平成13年 2 月 当社尼崎支店長 平成18年 2 月 当社城東支店長 平成20年 2 月 当社大阪支店長 平成22年 7 月 当社関西北陸統括長(現任) 平成24年 7 月 当社取締役に就任(現任)	注 1	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	総合企画本部副本部長兼社長室長	織戸 潔	昭和37年7月20日生	平成元年4月 当社入社 平成14年4月 当社新潟長野統括営業担当部長代理兼新潟支店支店長代理 平成18年5月 当社営業部部長代理 平成22年2月 当社営業部長 平成24年2月 当社東海統括長 平成25年2月 当社社長室長 平成25年7月 当社総合企画本部副本部長兼社長室長(現任) 平成25年7月 当社取締役に就任(現任)	注1	
取締役	営業管理部長	山本 栄一	昭和32年4月28日生	昭和55年4月 ㈱第四銀行入行 平成20年4月 同行大野支店長 平成21年6月 同行直江津支店長 平成23年6月 同行監査部長 平成25年7月 当社営業管理部長(現任) 平成26年7月 当社取締役に就任(現任)	注1	
取締役	関東統括長	飯野 正雄	昭和33年8月19日生	昭和52年3月 当社入社 平成8年9月 当社狭山支店長 平成14年2月 当社板橋支店長 平成18年2月 当社京浜支店長 平成22年8月 当社東京支店長兼東京物流センター長 平成24年6月 当社関東統括長(現任) 平成26年7月 当社取締役に就任(現任)	注1	
取締役	東北統括長	井上 賢司	昭和35年8月4日生	昭和54年3月 当社入社 平成7年4月 当社五泉支店長 平成10年2月 当社見附支店長 平成12年2月 当社社会津若松支店長 平成15年2月 当社郡山支店長 平成24年6月 当社東北統括長(現任) 平成26年7月 当社取締役に就任(現任)	注1	
監査役 (常勤)		大田 卓	昭和37年6月6日生	昭和61年4月 当社入社 平成8年2月 当社経理部経理課長 平成13年4月 当社経理部部長代理 平成22年7月 当社経理部長兼社長室グループ統括室長 平成24年7月 当社常勤監査役に就任(現任)	注2	
監査役		小田 等	昭和28年9月28日生	昭和52年3月 丸運建設㈱入社 平成12年7月 同社総務部長兼経理部長 平成17年1月 同社取締役に就任 平成19年1月 同社常務取締役に就任 平成20年1月 当社仮監査役に就任 平成20年7月 当社監査役に就任(現任) (主要な兼職) 平成20年1月 丸運建設㈱代表取締役社長	注2	
監査役		久住 優	昭和41年10月27日生	昭和62年9月 ㈱新潟自動車学校入社 平成20年6月 ㈱新潟ドライビングスクール総務部長代理 平成20年7月 当社監査役に就任(現任) 平成22年12月 ㈱巻中央自動車学校総務部長 平成24年7月 ㈱新潟ドライビングスクール総務部長 平成24年8月 ㈱新潟中央自動車学校管理部長(現任)	注2	
計						677

- (注) 1 平成26年4月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年4月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 2 平成24年4月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年4月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 代表取締役副社長 佐藤 肇氏は、代表取締役統括会長 佐藤 実氏の長男であります。
- 4 専務取締役 佐藤 朋弥氏は、代表取締役統括会長 佐藤 実氏の二男であります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (1)コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社におきましては、経営環境の急激な変化に対応して健全な経営基盤の確立と事業の積極的展開をはかるため、適法性や健全性を確保すると共に、経営の効率性を高め競争力を強化する組織をいかに構築するかということをも最最重要課題と考えております。

#### (2)会社の機関の内容

当社の経営上の意思決定、執行、監督に係る経営組織及びその他コーポレート・ガバナンス体制は、以下によって行われております。

##### (取締役会)

取締役会は、取締役会規程に基づき経営に関する重要な事項等を決定するとともに、業務の執行状況について監督を行っております。また定期的に開催する取締役会には監査役が出席し、必要があると認められた場合には意見を述べております。

##### (監査役)

監査役制度を採用し、監査役は3名の監査体制で臨んでおり、法令、定款等に基づき、取締役の業務執行の妥当性、適法性の監査を行っております。

#### (3)内部統制システムの整備の状況

内部統制システムの整備につきましては、平成18年5月11日の取締役会において内部統制に係る基本方針を決定し、平成27年7月29日の取締役会において内容を一部改定しました。その方針に沿って、企業倫理の徹底と法務リスクの対応を柱とするコンプライアンス体制を確立するとともに進捗状況のチェック、報告、評価等を適切に実施して、問題の早期発見と迅速な解決に努め、有効な是正策・再発防止を講ずる体制を整えてきました。また、子会社の内部統制システムの整備につきましては、当社のコンプライアンス規定やリスク管理規定に基づき、コンプライアンス体制やリスク管理体制の構築を図っておりますとともに、当社グループ統括室・担当役員において法令遵守体制及びリスク管理体制について指導、管理しております。

当社の取締役は16名（提出日現在）であり、取締役会において決定した事項については、担当取締役が全店への執行の指示を行うとともに、営業上の重要拠点である新潟、東京、大阪、春日井、仙台の各支店には統括長を配置し、各統括長の指示・指導の下で地域性を配慮した業務の円滑な運営をはかっております。

業務執行につきましては、取締役会において担当取締役より達成状況報告を行うと同時に問題点の把握につとめ、より効果的な施策を協議し、決定事項の執行に関して全力を傾注する体制を整えております。

さらに取締役、統括長、本部長による経営会議を毎月開催し、決定事項の進捗状況管理と状況に応じた迅速な対応に努めております。

#### (4)リスク管理体制の整備の状況

リスク管理につきましては、担当取締役による内部統制システムの緊密な連携の下に、経営ならびにコンプライアンス等に関する情報を収集し、リスクに対する評価及び対策を検討し、情報の共有化と適切な対応によって管理体制の強化をはかっております。

#### (5)内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、独立した部門である監査部（3名）が計画的な監査を実施し、各部門のコンプライアンスやリスクに関する管理状況等について、法令や社内規定等との整合性や有効性を検証し、その状況を取締役へ報告しております。

また、監査部と会計監査人及び監査役との連携を強化し、内部管理体制の充実強化をはかっております。

(6) 会計監査の状況

当社は、監査法人アリアと監査契約を結び、会計監査を受けております。当期において会計監査業務を執行した同監査法人の公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりであります。

会計監査業務を執行した公認会計士の氏名（継続監査年数）

代表社員 業務執行社員 山中 康之 （6年）  
 業務執行社員 古屋 尚樹 （1年）

会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 1名、その他 4名

(7) 社外取締役及び社外監査役との関係

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任していません。

(8) 役員報酬の内容

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する役員報酬は以下のとおりであります。

役員報酬

取締役を支払った報酬	116,130千円
監査役を支払った報酬	12,120千円
計	128,250千円

(9) 取締役の定数

当社の取締役は25名以内とする旨を定款で定めております。

(10) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

(11) 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	13,500		13,500	
連結子会社				
計	13,500		13,500	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。



## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年5月1日から平成27年4月30日まで)及び事業年度(平成26年5月1日から平成27年4月30日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、監査法人アリアにより監査を受けております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,053,400	1,264,740
受取手形及び営業未収入金	2, 4 9,110,804	2, 4 9,273,733
たな卸資産	6 195,248	6 170,361
繰延税金資産	352,786	448,743
その他	424,626	377,434
貸倒引当金	35,344	31,037
流動資産合計	11,101,523	11,503,975
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 25,809,505	2 26,772,055
減価償却累計額	20,266,497	20,466,162
建物及び構築物（純額）	5,543,007	6,305,892
機械装置及び運搬具	6,583,472	6,578,449
減価償却累計額	6,176,854	6,109,335
機械装置及び運搬具（純額）	406,618	469,113
土地	2 18,077,152	2 17,933,449
リース資産	3,328,619	4,397,891
減価償却累計額	1,362,156	1,998,442
リース資産（純額）	1,966,462	2,399,449
その他	1,065,618	1,056,792
減価償却累計額	892,049	887,561
その他（純額）	173,568	169,230
有形固定資産合計	26,166,809	27,277,135
無形固定資産	572,030	597,793
投資その他の資産		
投資有価証券	1 2,334,336	1 2,869,417
長期貸付金	4,335	4,359
繰延税金資産	43,557	585,439
その他	909,777	937,978
貸倒引当金	30,922	19,530
投資その他の資産合計	3,261,083	4,377,663
固定資産合計	29,999,923	32,252,592
資産合計	41,101,447	43,756,568

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び営業未払金	5,956,599	5,919,541
短期借入金	2, 5 8,390,627	2, 5 6,736,753
リース債務	624,862	824,435
未払法人税等	454,311	276,475
賞与引当金	599,430	805,130
その他	1,775,279	2,730,861
流動負債合計	17,801,109	17,293,197
<b>固定負債</b>		
社債	420,000	1,150,000
長期借入金	2 3,984,509	2 4,133,160
リース債務	1,362,612	1,596,442
繰延税金負債	1,434,906	128,823
役員退職慰労引当金	271,034	261,430
退職給付に係る負債	5,813,189	6,401,115
その他	239,414	365,862
固定負債合計	13,525,665	14,036,834
負債合計	31,326,775	31,330,031
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	810,000	81,000
資本剰余金	13,629	742,629
利益剰余金	8,218,220	10,278,004
自己株式	241	241
株主資本合計	9,041,608	11,101,392
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	313,418	623,695
退職給付に係る調整累計額	642,801	419,113
その他の包括利益累計額合計	329,382	204,582
少数株主持分	1,062,445	1,120,562
純資産合計	9,774,671	12,426,536
負債純資産合計	41,101,447	43,756,568

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
営業収益	54,023,156	55,279,662
営業原価	<sup>5</sup> 52,250,047	<sup>5</sup> 53,277,500
営業総利益	1,773,109	2,002,162
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 1,168,148	<sup>1</sup> 1,086,536
営業利益	604,960	915,625
営業外収益		
受取利息	1,112	259
受取配当金	33,000	36,875
負ののれん償却額	933	-
持分法による投資利益	12,726	34,547
受取駐車料	75,732	74,440
受取家賃	43,263	41,620
その他	111,707	116,176
営業外収益合計	278,476	303,920
営業外費用		
支払利息	158,235	147,218
その他	18,524	29,827
営業外費用合計	176,759	177,046
経常利益	706,677	1,042,500
特別利益		
固定資産売却益	<sup>2</sup> 30,534	<sup>2</sup> 79,899
負ののれん発生益	110	24
投資有価証券売却益	1,289	-
固定資産受贈益	196,871	-
特別利益合計	228,806	79,923
特別損失		
固定資産売却損	<sup>3</sup> 46	<sup>3</sup> 122,856
固定資産除却損	<sup>4</sup> 18,875	<sup>4</sup> 9,538
投資有価証券売却損	41,473	-
投資有価証券評価損	9,468	4,504
その他	-	13,670
特別損失合計	69,863	150,569
税金等調整前当期純利益	865,620	971,854
法人税、住民税及び事業税	574,120	468,734
法人税等調整額	20,588	1,882,549
法人税等合計	553,532	1,413,815
少数株主損益調整前当期純利益	312,088	2,385,669
少数株主利益	42,239	62,237
当期純利益	269,848	2,323,431

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	312,088	2,385,669
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,557	315,105
退職給付に係る調整額	-	219,098
その他の包括利益合計	<sup>1</sup> 11,557	<sup>1</sup> 96,006
包括利益	323,646	2,481,676
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	274,989	2,410,020
少数株主に係る包括利益	48,656	71,655

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	810,000	13,629	8,013,171	241	8,836,559
当期変動額					
剰余金の配当			64,800		64,800
当期純利益			269,848		269,848
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	205,048	-	205,048
当期末残高	810,000	13,629	8,218,220	241	9,041,608

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差 額金	退職給付に係る調整累 計額	その他の包括利益累計 額合計		
当期首残高	308,278	-	308,278	1,018,577	10,163,415
当期変動額					
剰余金の配当					64,800
当期純利益					269,848
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	5,140	642,801	637,660	43,868	593,792
当期変動額合計	5,140	642,801	637,660	43,868	388,743
当期末残高	313,418	642,801	329,382	1,062,445	9,774,671

当連結会計年度(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	810,000	13,629	8,218,220	241	9,041,608
会計方針の変更による累積的影響額			215,047		215,047
会計方針の変更を反映した当期首残高	810,000	13,629	8,003,172	241	8,826,560
当期変動額					
資本金から剰余金への振替	729,000	729,000			-
剰余金の配当			48,600		48,600
当期純利益			2,323,431		2,323,431
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	729,000	729,000	2,274,831	-	2,274,831
当期末残高	81,000	742,629	10,278,004	241	11,101,392

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	313,418	642,801	329,382	1,062,445	9,774,671
会計方針の変更による累積的影響額					215,047
会計方針の変更を反映した当期首残高	313,418	642,801	329,382	1,062,445	9,559,623
当期変動額					
資本金から剰余金への振替					-
剰余金の配当					48,600
当期純利益					2,323,431
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	310,276	223,687	533,964	58,116	592,080
当期変動額合計	310,276	223,687	533,964	58,116	2,866,912
当期末残高	623,695	419,113	204,582	1,120,562	12,426,536

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	865,620	971,854
減価償却費	1,477,854	1,667,896
負ののれん償却額	933	-
負ののれん発生益	110	24
持分法による投資損益(は益)	12,726	34,547
貸倒引当金の増減額(は減少)	25,954	7,158
賞与引当金の増減額(は減少)	98,290	205,700
退職給付引当金の増減額(は減少)	4,847,880	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	5,170,388	365,460
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	31,267	9,604
受取利息及び受取配当金	34,113	37,134
支払利息	158,235	147,218
投資有価証券売却損益(は益)	40,183	-
投資有価証券評価損益(は益)	9,468	4,504
有形固定資産売却損益(は益)	30,487	42,956
固定資産除却損	18,875	9,538
固定資産受贈益	196,871	-
長期前払費用の増減額(は増加)	6,577	41,612
未払消費税等の増減額(は減少)	41,709	461,000
売上債権の増減額(は増加)	568,873	174,428
たな卸資産の増減額(は増加)	6,681	24,887
仕入債務の増減額(は減少)	459,238	37,057
その他の流動資産の増減額(は増加)	2,614	9,978
その他の流動負債の増減額(は減少)	76,600	78,697
その他の固定資産の増減額(は増加)	904	306
その他の固定負債の増減額(は減少)	7,983	127,680
小計	2,793,086	3,770,471
利息及び配当金の受取額	34,103	37,072
利息の支払額	157,922	146,347
法人税等の支払額	370,842	618,620
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,298,426	3,042,576



(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	84,700	27,544
投資有価証券の売却による収入	114,181	-
有形固定資産の取得による支出	492,046	1,666,850
有形固定資産の除却による支出	11,396	5,695
有形固定資産の売却による収入	31,571	194,734
無形固定資産の取得による支出	13,005	54,763
短期貸付けによる支出	115,954	66,685
短期貸付金の回収による収入	215,573	131,161
長期貸付金の回収による収入	444	200
子会社株式の取得による支出	12	0
投融資による支出	3,848	15,379
投融資の回収による収入	35,345	19,874
投資活動によるキャッシュ・フロー	323,847	1,490,949
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	780,253	1,499,082
長期借入れによる収入	2,600,000	2,460,000
長期借入金の返済による支出	2,544,374	2,466,141
社債の発行による収入	-	1,300,000
社債の償還による支出	180,000	310,000
リース債務の返済による支出	675,599	772,138
配当金の支払額	64,788	48,589
少数株主への配当金の支払額	4,665	4,336
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,649,681	1,340,287
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	324,897	211,339
現金及び現金同等物の期首残高	728,503	1,053,400
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,053,400	1 1,264,740

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 6社

主要な連結子会社の名称

東北新潟運輸(株)

上越運送(株)

エヌ・ユー総合物流(株)

新潟通運(株)

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社数 7社

持分法適用の非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

丸運輸送(株)

巻運送(株)

(2) 持分法を適用しない関連会社のうち主要な会社の名称

宏商物産(株)

(持分法を適用しない理由)

当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法適用会社のうち決算日が連結決算日と異なっている会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社 6社の決算日は平成27年3月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。但し、平成27年4月1日から連結決算日の平成27年4月30日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

販売用不動産...個別法による原価法

貯蔵品.....先入先出法による原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、賃貸用資産のうち東京物流センターの建物及び平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～47年

機械装置及び運搬具 2～17年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

ただし、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零(残価保証の取決めがある場合は残価保証額)とする定額法によっております。

長期前払費用

均等償却によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒に備え、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与に充てるため、実際支給予定額に基づく支給額対象期間基準で計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び会計基準変更時差異の費用処理方法

会計基準変更時差異(3,138,878千円)は、15年による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理することとしております。

小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップについて特例処理の条件を満たしているため、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金

ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の条件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価格の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間に対応した複数の割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当連結会計年度の期首の退職給付に係る負債が215,047千円増加し、利益剰余金が215,047千円減少しております。また、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ31,738千円増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)
- ・「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)
- ・「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成25年9月13日)
- ・「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成25年9月13日)

(1) 概要

本会計基準等は、子会社株式の追加取得等において支配が継続している場合の子会社に対する親会社の持分変動の取扱い、取得関連費用の取扱い、当期純利益の表示及び少数株主持分から非支配株主持分への変更、暫定的な会計処理の取扱いを中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

平成28年4月期の期首より適用予定です。なお、暫定的な会計処理の取扱いについては、平成28年4月期の期首以後実施される企業結合から適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(連結貸借対照表関係)

- 1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
投資有価証券(株式)	625,282千円	657,075千円

- 2 担保資産

担保設定状況は次のとおりであります。

(前連結会計年度)

担保に供している資産		担保権によって担保されている債務	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
受取手形及び営業未収入金	1,331,533	短期借入金	8,202,173
建物及び構築物	3,494,963	長期借入金	3,774,509
土地	13,743,957	関連会社の短期借入金	27,200
計	18,570,454	計	12,003,882

(当連結会計年度)

担保に供している資産		担保権によって担保されている債務	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
受取手形及び営業未収入金	1,336,535	短期借入金	6,510,385
建物及び構築物	3,368,937	長期借入金	3,922,656
土地	13,791,457	関連会社の短期借入金	28,200
計	18,496,930	計	10,461,241

- 3 偶発債務

- (1) 連結子会社以外の会社の借入金に対して次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
新潟運輸グループ協同組合	15,200千円	16,200千円
新潟流通センター運送事業協同組合	42,300	24,300
計	57,500	40,500

- (2) 連結子会社以外の会社の未払債務(鉄道コンテナ輸送料)に対して次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
巻運送(株)	22,867千円	25,954千円

- (3) (前連結会計年度)

新潟運輸グループ協同組合の未払債務(有料道路料)の保証引受人に対し19,780千円、新潟流通センター運送事業協同組合の未払債務(有料道路料)の保証引受人に対し12,539千円保証を行っております。

(当連結会計年度)

新潟運輸グループ協同組合の未払債務(有料道路料)の保証引受人に対し20,765千円、新潟流通センター運送事業協同組合の未払債務(有料道路料)の保証引受人に対し15,760千円保証を行っております。

## 4 手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
受取手形割引高	25,713千円	17,883千円
受取手形裏書譲渡高	7,045	4,334

## 5 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメント契約を締結しております。

連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
貸出コミットメントの総額	4,000,000千円	4,000,000千円
貸出実行残高	4,000,000	3,000,000
差引額		1,000,000

## 6 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
貯蔵品	106,249千円	85,157千円
販売用不動産	88,999	85,204

(連結損益計算書関係)

## 1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年5月1日 至平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)
1 役員報酬	209,574千円	210,000千円
2 給与手当	411,076	404,138
3 賞与	33,131	30,408
4 賞与引当金繰入額	25,070	29,723
5 退職給付費用	29,311	27,943
6 役員退職慰労引当金繰入額	31,267	31,082
7 貸倒引当金繰入額	23,976	7,208

## 2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年5月1日 至平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)
機械装置及び運搬具	30,534千円	79,899千円

## 3 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年5月1日 至平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)
機械装置及び運搬具	46千円	157千円
建物及び構築物		23,602
土地		146,300
計	46	122,856

当連結会計年度に建物と土地が一体となった固定資産を売却した際、建物部分については売却益、土地部分については売却損が発生しているため、売却損益を通算して固定資産売却損を計上しております。

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
機械装置及び運搬具	2,846千円	81千円
建物及び構築物	14,266	5,082
その他	1,762	4,374
計	18,875	9,538

5 棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
営業原価	3,809千円	3,794千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	32,727千円	475,744千円
組替調整額	49,651	4,504
税効果調整前	16,923	480,249
税効果額	5,365	165,144
その他有価証券評価差額金	11,557	315,105
退職給付に係る調整額		
当期発生額		7,417
組替調整額		
税効果調整前		7,417
税効果額		226,516
退職給付に係る調整額		219,098
その他の包括利益合計	11,557	96,006

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	16,200,000			16,200,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	4,832			4,832

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成25年7月29日 定時株主総会	普通株式	64,800千円	4円	平成25年4月30日	平成25年7月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成26年7月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	48,600千円	3円	平成26年4月30日	平成26年7月30日

当連結会計年度(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	16,200,000			16,200,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	4,832			4,832

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成26年7月29日 定時株主総会	普通株式	48,600千円	3円	平成26年4月30日	平成26年7月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成27年7月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	48,600千円	3円	平成27年4月30日	平成27年7月30日



(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
現金及び預金勘定	1,053,400千円	1,264,740千円
現金及び現金同等物	1,053,400	1,264,740

2 重要な非資金取引の内容

(前連結会計年度)

当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び負債の額は、それぞれ945,174千円です。

(当連結会計年度)

当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び負債の額は、それぞれ1,206,040千円です。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として車両であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項」の「(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (平成27年 4月30日)
一年内	185,855千円	46,637千円
一年超	60,791	48,194
合計	246,646	94,831

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については主に銀行からの借入によっております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形及び営業未収入金、並びに長期貸付金に係る信用リスクについては、取引先ごとに期日及び残高を管理し、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、投資有価証券は株式であり、上場株式については市場価格の変動リスクに晒されておりますが、毎月時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び営業未払金は、1年以内の支払期日であります。また、借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に運転資金及び設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。

デリバティブ取引は、支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。また、デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限などを定めた社内ルールに従い、資金担当部門が決裁者の承認を得て行っております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)については、資金繰り計画を作成・更新し、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成26年4月30日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,053,400	1,053,400	
(2) 受取手形及び営業未収入金	9,110,804	9,110,804	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	1,489,428	1,489,428	
(4) 長期貸付金(1年内含む)	4,656		
貸倒引当金(1)	4,214		
	442	442	
資産計	11,654,076	11,654,076	
(1) 支払手形及び営業未払金	5,956,599	5,956,599	
(2) 短期借入金	6,073,454	6,073,454	
(3) 社債(1年内含む)	600,000	601,592	1,592
(4) 長期借入金(1年内含む)	6,301,682	6,331,283	29,601
(5) リース債務(1年内含む)	1,987,474	1,988,553	1,078
負債計	20,919,210	20,951,483	32,272
デリバティブ取引			

(1) 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度(平成27年4月30日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,264,740	1,264,740	
(2) 受取手形及び営業未収入金	9,273,733	9,273,733	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	1,992,717	1,992,717	
(4) 長期貸付金(1年内含む)	5,023		
貸倒引当金(1)	4,014		
	1,009	1,009	
資産計	12,532,200	12,532,200	
(1) 支払手形及び営業未払金	5,919,541	5,919,541	
(2) 短期借入金	4,574,372	4,574,372	
(3) 社債(1年内含む)	1,590,000	1,596,672	6,672
(4) 長期借入金(1年内含む)	6,295,541	6,321,943	26,402
(5) リース債務(1年内含む)	2,420,877	2,418,716	2,160
負債計	20,800,332	20,831,246	30,914
デリバティブ取引			

(1) 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

#### 資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び営業未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(4) 長期貸付金

長期貸付金の貸倒引当金控除後の時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

#### 負 債

(1) 支払手形及び営業未払金、並びに(2)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 社債、(4) 長期借入金、(5)リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の発行、借入、リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

#### デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成26年4月30日	平成27年4月30日
非上場株式	219,625	219,625

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(注3)満期のある金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成26年4月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,053,400			
受取手形及び営業未収入金	9,110,804			
長期貸付金(1年内含む)	321	4,335		
合計	10,164,527	4,335		

当連結会計年度(平成27年4月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,264,740			
受取手形及び営業未収入金	9,273,733			
長期貸付金(1年内含む)	664	4,359		
合計	10,539,138	4,359		

(注4)社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成26年4月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	6,073,454					
社債(1年内含む)	180,000	180,000	140,000	100,000		
長期借入金(1年内含む)	2,317,173	1,675,669	1,223,780	799,329	285,731	
リース債務(1年内含む)	624,862	596,551	440,030	223,726	96,428	5,873
合計	9,195,489	2,452,220	1,803,810	1,123,055	382,159	5,873

当連結会計年度(平成27年4月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	4,574,372					
社債(1年内含む)	440,000	400,000	360,000	260,000	130,000	
長期借入金(1年内含む)	2,162,381	1,710,492	1,286,041	772,443	346,124	18,060
リース債務(1年内含む)	824,435	670,665	457,147	325,618	139,703	3,305
合計	8,001,188	2,781,157	2,103,188	1,358,061	615,827	21,365

(有価証券関係)

1 その他有価証券で時価のあるもの

前連結会計年度(平成26年4月30日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,460,521	948,407	512,114
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	1,460,521	948,407	512,114
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	28,906	43,939	15,032
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	28,906	43,939	15,032
合計		1,489,428	992,346	497,081

当連結会計年度(平成27年4月30日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,936,612	953,950	982,662
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	1,936,612	953,950	982,662
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	56,104	61,435	5,331
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	56,104	61,435	5,331
合計		1,992,717	1,015,385	977,331

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1) 株式	114,618	1,289	41,473
(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
(3) その他			
合計	114,618	1,289	41,473

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

該当事項はありません。

3 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において有価証券について9,468千円、当連結会計年度において有価証券について4,504千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%程度以上下落した場合には、回復する見込みがあると認められる場合を除き減損処理を行い、30%~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められる額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	827,500	582,500	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	582,500	337,500	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。

なお、連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表 (簡便法を適用した制度を除く。)

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月 30日)	(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月 30日)
退職給付債務の期首残高	5,517,026	5,555,254
会計方針の変更による累積的影響額		215,047
会計方針の変更を反映した期首残高	5,517,026	5,770,302
勤務費用	285,069	288,124
利息費用	82,647	45,812
数理計算上の差異の発生額	14,892	254,571
退職給付の支払額	314,597	217,882
退職給付債務の期末残高	5,555,254	6,140,926

(2) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月 30日)	(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月 30日)
退職給付に係る負債の期首残高	268,621	257,934
退職給付費用	22,095	25,684
退職給付の支払額	32,782	23,431
退職給付に係る負債の期末残高	257,934	260,188

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成26年 4月 30日)	(平成27年 4月 30日)
非積立型制度の退職給付債務	5,813,189	6,401,115
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,813,189	6,401,115
退職給付に係る負債	5,813,189	6,401,115
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,813,189	6,401,115

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月 30日)	(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月 30日)
勤務費用	285,069	288,124
利息費用	82,647	45,812
数理計算上の差異の費用処理額	70,815	37,894
会計基準変更時差異の費用処理額	209,258	209,258
簡便法で計算した退職給付費用	22,095	25,684
確定給付制度に係る退職給付費用	669,887	606,774

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

（千円）

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
数理計算上の差異		22,612
その他		15,194
合計		7,417

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

（千円）

	前連結会計年度 (平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (平成27年 4月30日)
未認識数理計算上の差異	224,285	440,961
会計基準変更時差異の未処理額	418,516	209,257
合計	642,801	650,218

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
割引率	1.5%	0.5%



(税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

## 繰延税金資産(流動)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
賞与引当金	210,252千円	279,825千円
退職給付引当金	52,182	83,636
未払事業税	36,137	25,395
未払自動車税・労働保険料	8,797	8,917
未払法定福利費	30,102	40,381
未払車両事故費	43,821	12,326
その他	21,046	11,389
計	402,339	461,872
評価性引当額	49,552	13,128
合計	352,786	448,743

## 繰延税金資産(固定)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
退職給付に係る負債	1,766,253千円	1,842,102千円
役員退職慰労引当金	92,409	88,636
減損損失	25,499	18,804
投資有価証券評価損	18,731	19,781
関係会社株式評価損	1,412	1,396
貸倒引当金	293	342
販売用不動産評価損	38,377	39,598
退職給付に係る調整累計額		226,516
その他	8,181	6,389
計	1,951,157	2,243,568
評価性引当額	1,879,379	169,350
小計	71,778	2,074,217

## 繰延税金負債(固定)

租税特別措置法上の圧縮積立金	27,105	1,146,813
その他有価証券評価差額金		327,744
その他	1,116	14,219
小計	28,221	1,488,778
合計	43,557	585,439

## 繰延税金負債(固定)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
租税特別措置法上の圧縮積立金	1,256,769千円	1,257,179千円
その他有価証券評価差額金	174,912	340,242
その他	3,224	20,179
繰延税金資産(固定)との相殺		1,488,778
合計	1,434,906	128,823

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
法定実効税率	37.7%	35.3%
(調整)		
交際費等永久に損金算入されない項目	0.8%	0.3%
受取配当金等永久に益金算入されない項目	0.8%	0.7%
住民税均等割	2.6%	2.4%
評価性引当額	22.2%	179.6%
税率変更による期末繰延税金資産(負債)の減額修正	2.5%	1.3%
税額控除による影響額	%	3.5%
その他	1.1%	1.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	63.9%	145.5%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

平成26年9月30日に資本金の額が81,000千円に減少したことにより、事業税率及び法人税率が変更となりました。また、「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以降に開始する連結会計年度から法人税率の引下げが行われることとなりました。

これらに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率が、平成27年5月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異について、前連結会計年度の35.3%から34.9%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は11,019千円減少し、法人税等調整額(借方)が12,235千円、その他有価証券評価差額金が3,756千円、退職給付に係る調整累計額が2,540千円、それぞれ増加しております。

(資産除去債務関係)

1 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

事業用土地の定期借地契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から19年と見積り、割引率は2.052%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
期首残高	6,783千円	6,923千円
時の経過による調整額	139 "	142 "
期末残高	6,923 "	7,065 "

2 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上していないもの

当社グループは、不動産賃貸借契約により使用する建物等の一部について、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確でなく、移転等も予定されていないことから資産除去債務を合理的に見積ることができません。また、一部の建物について、解体時におけるアスベスト除去費用に係る債務を有しておりますが、当該債務に関する建物の撤去時期が明確でなく、解体予定もないことから資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用の倉庫(土地を含む)等を有しております。平成26年4月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は302,726千円(賃貸収益は営業収益に、主な賃貸費用は営業原価に計上)であります。平成27年4月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は288,059千円(賃貸収益は営業収益に、主な賃貸費用は営業原価に計上)であります。

賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額及び期中における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	3,543,759	3,627,127
	期中増減額	83,367	989,469
	期末残高	3,627,127	4,616,596
期末時価		5,949,906	7,045,571

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、賃貸用の土地購入(181,133千円)であり、減少は、賃貸用の倉庫等の減価償却(98,788千円)であります。  
当連結会計年度の主な増加は賃貸用の倉庫新築(1,125,725千円)であり、減少は、賃貸用の倉庫等の減価償却(151,341千円)であります。

3. 時価の算定方法

主要な物件については「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定し、その他の物件については路線価等に基づいて算定しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主に特別積合せ運送事業による貨物輸送等を行う「貨物自動車運送事業」、賃貸用倉庫等の不動産賃貸を行う「不動産事業」の2つを報告セグメントとしております。

## 2 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	貨物自動車 運送事業	不動産事業	計			
営業収益						
外部顧客に対する 営業収益	53,214,586	534,022	53,748,609	274,547		54,023,156
セグメント間の内部 営業収益又は振替高		136,865	136,865		136,865	
計	53,214,586	670,887	53,885,474	274,547	136,865	54,023,156
セグメント利益	1,206,402	470,634	1,677,036	41,062	1,113,138	604,960
セグメント資産	34,988,998	3,776,603	38,765,601	19,388	2,316,457	41,101,447
セグメント負債	16,839,392	229,315	17,068,708	39,365	14,218,702	31,326,775
その他の項目						
減価償却費	1,352,532	99,259	1,451,791	63	25,999	1,477,854
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,403,796	182,183	1,585,979		12,696	1,598,676

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物品販売事業であります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 1,113,138千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

(2) セグメント資産の調整額2,316,457千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に報告セグメントに帰属しない本社建物等であります。

(3) セグメント負債の調整額14,218,702千円は、各報告セグメントに配分していない全社負債であり、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の総務部門等管理部門に係る負債であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	貨物自動車 運送事業	不動産事業	計			
営業収益						
外部顧客に対する 営業収益	54,377,859	596,693	54,974,552	305,110		55,279,662
セグメント間の内部 営業収益又は振替高		135,521	135,521		135,521	
計	54,377,859	732,214	55,110,074	305,110	135,521	55,279,662
セグメント利益	1,434,678	456,703	1,891,382	52,942	1,028,698	915,625
セグメント資産	36,084,792	4,760,381	40,845,174	20,501	2,890,892	43,756,568
セグメント負債	17,579,447	375,081	17,954,529	43,003	13,332,499	31,330,031
その他の項目						
減価償却費	1,489,816	151,741	1,641,558	65	26,272	1,667,896
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,842,009	1,140,946	2,982,955	255	36,976	3,020,186

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物品販売事業であります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 1,028,698千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

(2) セグメント資産の調整額2,890,892千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に報告セグメントに帰属しない本社建物等であります。

(3) セグメント負債の調整額13,332,499千円は、各報告セグメントに配分していない全社負債であり、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の総務部門等管理部門に係る負債であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)

#### 1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの外部顧客に対する営業収益が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### 2 地域ごとの情報

##### (1) 営業収益

本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

##### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

#### 3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客に対する営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの外部顧客に対する営業収益が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客に対する営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

貨物自動車運送事業において110千円の負ののれん発生益を計上しております。これは、平成25年8月20日に連結子会社の新潟トラック運送株式会社の株式を追加取得したために発生したものであります。

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

貨物自動車運送事業において24千円の負ののれん発生益を計上しております。これは、平成26年7月15日に連結子会社の新潟トラック運送株式会社の株式を追加取得したために発生したものであります。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

前連結会計年度(自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主(法人)	丸運建設(株)	新潟市中央区	95,000	建設業	所有 直接 0.9 間接 2.3 被所有 直接 17.1	建築業務等の委託 役員の兼任	建築業務等の委託	140,826	設備未払金	30,072
							土地の購入	180,283		

取引条件及び取引条件の決定方針等

建築業務等の委託については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。

土地の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。

取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度(自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主(法人)	丸運建設(株)	新潟市中央区	95,000	建設業	所有 直接 0.9 間接 2.3 被所有 直接 17.1	建築業務等の委託 役員の兼任	建築業務等の委託	1,407,083	設備未払金	238,862
							資金の借入	500,000	短期借入金	
							利息の支払	926		

取引条件及び取引条件の決定方針等

建築業務等の委託については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。

資金の借入及び利息の支払については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。

取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社(当該関連会社の子会社を含む)	巻運送(株)	新潟県 燕市	48,000	貨物自動車 運送事業	所有 直接 20.0 間接 4.1 被所有 直接 0.1	運送業務等 の委託 役員の兼任	債務保証  保証料の受入	22,867  19		
	宏商物産(株)	新潟市 西区	27,500	物品販売業	所有 直接 17.8 間接 6.7 被所有 直接 9.3	車両・燃料 等の購入 役員の兼任	車両・燃料 等の購入	3,163,560	設備未払金  営業未払金	23,683  718,653
	新潟運輸グループ協同組合	新潟市 中央区	9,700	転貸金融業	所有 直接 3.1 間接 18.7	通行料金等 の支払 役員の兼任	資金の借入  利息の支払  債務保証  資産の担保 提供	50,000  30  27,200  27,200	短期借入金	

取引条件及び取引条件の決定方針等

債務保証の内容は、金融機関借入保証及び支払保証であり、取引金額は期末時点の保証残高であります。  
保証料の受入については、当社の算出した対価に基づいて交渉の上決定しております。  
車両・燃料等の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
資金の借入及び利息の支払については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。  
資産の担保提供の内容は、銀行借入金に対する土地、建物の担保提供であります。  
取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社(当該関連会社の子会社を含む)	巻運送(株)	新潟県 燕市	48,000	貨物自動車 運送事業	所有 直接 20.0 間接 4.1 被所有 直接 0.1	運送業務等 の委託 役員の兼任	債務保証  保証料の受入	25,954  24		
	宏商物産(株)	新潟市 西区	27,500	物品販売業	所有 直接 17.8 間接 6.7 被所有 直接 9.3	車両・燃料 等の購入 役員の兼任	車両・燃料 等の購入	2,990,145	設備未払金  営業未払金	81,125  598,955
	新潟運輸グループ協同組合	新潟市 中央区	9,700	転貸金融業	所有 直接 3.1 間接 18.7	通行料金等 の支払 役員の兼任	資金の借入  利息の支払  債務保証  資産の担保 提供	150,000  371  28,200  28,200	短期借入金	

取引条件及び取引条件の決定方針等

債務保証の内容は、金融機関借入保証及び支払保証であり、取引金額は期末時点の保証残高であります。  
保証料の受入については、当社の算出した対価に基づいて交渉の上決定しております。  
車両・燃料等の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
資金の借入及び利息の支払については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。  
資産の担保提供の内容は、銀行借入金に対する土地、建物の担保提供であります。  
取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。



(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
 前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社 の子会社	丸運交通(株)	新潟市 西区	81,376	貨物自動車 運送事業	被所有 直接 1.5	運送業務等 の委託 役員の兼任	資金の借入  利息の支払	40,000  77	短期借入金	
	エヌ・ユー情 報サービス(株)	新潟市 中央区	30,000	情報サービ ス業	被所有 直接 0.9	コンピュータ 役務の受入 役員の兼任	固定資産の 購入	71,941	設備未払金	20,985
	(有)萬恒産	新潟県 佐渡市	30,000	ホテル・物 品販売業		物品の購入 等 役員の兼任	固定資産の 購入	22,995	設備未払金	1,777

取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の借入及び利息の支払については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。  
 固定資産の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社 の子会社	丸運交通(株)	新潟市 西区	81,376	貨物自動車 運送事業	被所有 直接 1.5	運送業務等 の委託 役員の兼任	資金の借入  利息の支払	110,000  292	短期借入金	
	エヌ・ユー情 報サービス(株)	新潟市 中央区	30,000	情報サービ ス業	被所有 直接 0.9	コンピュータ 役務の受入 役員の兼任	固定資産の 購入 資金の借入 利息の支払	40,459 60,000 115	設備未払金 短期借入金	2,825
	(有)萬恒産	新潟県 佐渡市	30,000	ホテル・物 品販売業		物品の購入 等 役員の兼任	車両・タイ ヤ等の購入 資産の譲渡	346,843 22,591	設備未払金 営業未払金 未収入金	13,595 6,912 5,656

取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の借入及び利息の支払については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。  
 固定資産の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
 車両・タイヤ等の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
 資産の譲渡については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

エヌ・ユー総合物流株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	宏商物産(株)	新潟市 西区	27,500	物品販売業		燃料等の購入 役員の兼任	資金の貸付 利息の受取	55,000 442	短期貸付金	55,000

新潟トラック運送株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	宏商物産(株)	新潟市 西区	27,500	物品販売業	被所有 直接 15.0	燃料等の購入 役員の兼任	資金の貸付 利息の受取	30,000 195	短期貸付金	10,000

長岡運輸株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	宏商物産(株)	新潟市 西区	27,500	物品販売業	所有 直接 2.9 被所有 直接 5.5	燃料等の購入 役員の兼任	固定資産の 購入	37,360		

東北新潟運輸株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	新潟運輸グループ協同組合	新潟市 中央区	9,700	転貸金融業	所有 直接 3.1	通行料金等の支払 役員の兼任	資金の借入 利息の支払	60,000 471	短期借入金	42,169

新潟通運株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	宏商物産(株)	新潟市 西区	27,500	物品販売業		燃料等の購入 役員の兼任	資金の貸付 利息の受取	30,000 172	短期貸付金	

取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の貸付及び利息の受取については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。  
固定資産の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
資金の借入及び利息の支払については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。  
取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

エヌ・ユー総合物流株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	宏商物産(株)	新潟市 西区	27,500	物品販売業		燃料等の購入 役員の兼任	資金の貸付 利息の受取	55,000 257	短期貸付金	

新潟トラック運送株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	丸運自動車工業(株)	新潟市 西区	50,000	自動車整備業	所有 直接 0.4 間接 29.1 被所有 直接 1.0 間接 2.7	車両修理等 の委託 役員の兼任	固定資産の 購入	10,584		
	宏商物産(株)	新潟市 西区	27,500	物品販売業	被所有 直接 15.0	燃料等の購入 役員の兼任	資金の貸付 利息の受取	10,000 53	短期貸付金	

東北新潟運輸株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	新潟運輸グループ協同組合	新潟市 中央区	9,700	転貸金融業	所有 直接 3.1	通行料金等 の支払 役員の兼任	資金の借入 利息の支払	60,000 358	短期借入金	31,700

取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の貸付及び利息の受取については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。  
固定資産の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
資金の借入及び利息の支払については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。  
取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

新潟トラック運送株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
兄弟会社	(有)萬恒産	新潟県 佐渡市	30,000	ホテル・物 品販売業		物品の購入 等 役員の兼任	固定資産の 購入	20,650		

上越運送株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
兄弟会社	(有)萬恒産	新潟県 佐渡市	30,000	ホテル・物 品販売業		物品の購入 等 役員の兼任	固定資産の 購入	14,191		

東北新潟運輸株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
兄弟会社	(有)萬恒産	新潟県 佐渡市	30,000	ホテル・物 品販売業		物品の購入 等 役員の兼任	固定資産の 購入	34,199		

取引条件及び取引条件の決定方針等

固定資産の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。

取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

長岡運輸株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
兄弟会社	(有)萬恒産	新潟県 佐渡市	30,000	ホテル・物 品販売業		物品の購入 等 役員の兼任	固定資産の 購入	24,459		

上越運送株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
兄弟会社	(有)萬恒産	新潟県 佐渡市	30,000	ホテル・物 品販売業		物品の購入 等 役員の兼任	固定資産の 購入	44,485		

東北新潟運輸株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
兄弟会社	(有)萬恒産	新潟県 佐渡市	30,000	ホテル・物 品販売業		物品の購入 等 役員の兼任	固定資産の 購入	15,071		

新潟通運株式会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
兄弟会社	(有)萬恒産	新潟県 佐渡市	30,000	ホテル・物 品販売業		物品の購入 等 役員の兼任	資産の譲渡	16,039		

取引条件及び取引条件の決定方針等

固定資産の購入については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
 資産の譲渡については、提示された価格により検討し、交渉の上決定しております。  
 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

(株)宏商保険サービス(非上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)		当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)	
1株当たり純資産額	537.95円	1株当たり純資産額	698.10円
1株当たり当期純利益	16.66円	1株当たり当期純利益	143.46円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益	

- (注) 1. 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。  
 この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が13.27円減少し、1株当たり当期純利益金額が1.95円増加しております。  
 3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	269,848	2,323,431
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	269,848	2,323,431
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,195	16,195

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
新潟運輸株	第4回無担保社債	平成23年 10月28日	200,000	120,000 (80,000)	0.60	無担保社債	平成28年 10月28日
新潟運輸株	第5回無担保社債	平成24年 11月29日	400,000	300,000 (100,000)	0.50	無担保社債	平成29年 11月29日
新潟運輸株	第6回無担保社債	平成26年 5月30日		720,000 (160,000)	0.45	無担保社債	平成31年 5月30日
新潟運輸株	第7回無担保社債	平成26年 7月28日		450,000 (100,000)	0.38	無担保社債	平成31年 7月26日
合計			600,000	1,590,000 (440,000)			

(注) 1. 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
440,000	400,000	360,000	260,000	130,000

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	6,073,454	4,574,372	0.64	
1年以内に返済予定の長期借入金	2,317,173	2,162,381	1.12	
1年以内に返済予定のリース債務	624,862	824,435	1.32	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	3,984,509	4,133,160	1.03	平成28年～平成33年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	1,362,612	1,596,442	1.26	平成28年～平成33年
その他有利子負債				
合計	14,362,611	13,290,790		

(注) 1. 「平均利率」については、当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,710,492	1,286,041	772,443	346,124
リース債務	670,665	457,147	325,618	139,703

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	472,580	478,120
受取手形	1 1,919,681	1 1,913,662
営業未収入金	6,605,565	6,803,129
貯蔵品	96,412	77,181
前払費用	174,991	176,659
繰延税金資産	335,651	431,056
未収入金	115,274	128,703
その他	26,503	24,161
貸倒引当金	31,320	28,169
流動資産合計	9,715,340	10,004,504
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 19,422,667	1 20,291,862
減価償却累計額	15,107,014	15,252,824
建物（純額）	4,315,653	5,039,037
構築物	3,475,613	3,496,127
減価償却累計額	3,302,135	3,287,319
構築物（純額）	173,478	208,808
機械及び装置	685,707	698,647
減価償却累計額	478,299	554,555
機械及び装置（純額）	207,407	144,092
車両運搬具	3,990,699	3,948,464
減価償却累計額	3,925,859	3,752,723
車両運搬具（純額）	64,839	195,741
工具、器具及び備品	958,567	961,371
減価償却累計額	792,808	800,769
工具、器具及び備品（純額）	165,759	160,602
土地	1 16,180,301	1 15,989,097
リース資産	2,765,747	3,771,586
減価償却累計額	1,107,226	1,686,977
リース資産（純額）	1,658,521	2,084,609
有形固定資産合計	22,765,960	23,821,988
無形固定資産		
借地権	451,506	451,395
ソフトウェア	43,720	70,706
電話加入権	27,410	25,648
施設利用権	4,681	2,837
無形固定資産合計	527,319	550,588

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,543,157	2,028,502
関係会社株式	302,596	302,597
出資金	25,751	25,401
関係会社出資金	1,600	1,600
長期貸付金	4,335	4,359
繰延税金資産	-	308,737
破産更生債権等	25,345	13,988
長期前払費用	14,561	57,118
差入保証金	566,626	562,811
その他	207,128	208,760
貸倒引当金	30,815	19,424
投資その他の資産合計	2,660,288	3,494,453
固定資産合計	25,953,568	27,867,030
資産合計	35,668,909	37,871,535
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	2 2,736,234	2 2,718,262
営業未払金	2 3,218,165	2 3,247,940
短期借入金	1, 4 5,750,000	1, 4 4,300,000
1年内返済予定の長期借入金	1 1,986,900	1 1,787,800
リース債務	522,895	714,923
未払金	396,336	325,492
未払費用	551,327	586,727
未払法人税等	407,429	232,418
未払消費税等	201,593	587,911
前受金	63,645	70,792
預り金	115,688	117,000
賞与引当金	556,000	762,000
その他	258,768	787,118
流動負債合計	16,764,983	16,238,387
<b>固定負債</b>		
社債	420,000	1,150,000
長期借入金	1 3,217,500	1 3,355,400
リース債務	1,152,860	1,387,717
繰延税金負債	1,311,580	-
退職給付引当金	4,942,842	5,505,902
役員退職慰労引当金	165,695	165,016
資産除去債務	6,923	7,065
その他	221,313	346,505
固定負債合計	11,438,716	11,917,606
負債合計	28,203,699	28,155,994



(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	810,000	81,000
資本剰余金		
資本準備金	13,629	13,629
その他資本剰余金	-	729,000
資本剰余金合計	13,629	742,629
利益剰余金		
利益準備金	198,000	198,000
その他利益剰余金		
土地圧縮積立金	1,741,646	1,752,413
固定資産圧縮積立金	357,163	333,779
特別償却準備金	-	24,902
別途積立金	3,700,000	3,800,000
繰越利益剰余金	339,634	2,171,463
利益剰余金合計	6,336,444	8,280,558
株主資本合計	7,160,074	9,104,188
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	305,135	611,352
評価・換算差額等合計	305,135	611,352
純資産合計	7,465,209	9,715,540
負債純資産合計	35,668,909	37,871,535

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当事業年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
営業収益	50,617,715	52,007,547
営業原価	1 49,266,975	1 50,470,163
営業総利益	1,350,740	1,537,383
販売費及び一般管理費		
役員報酬	129,264	128,250
給料及び手当	316,100	305,408
賞与	23,463	22,357
賞与引当金繰入額	22,017	26,898
退職給付費用	25,936	23,767
役員退職慰労引当金繰入額	18,058	17,854
法定福利費	51,722	53,839
減価償却費	16,099	15,649
租税公課	11,188	11,446
事業所税	958	958
事業税	52,550	-
旅費	24,989	22,299
支払手数料	46,305	42,321
広告宣伝費	8,775	8,470
貸倒引当金繰入額	23,988	8,365
その他	126,661	120,587
販売費及び一般管理費合計	1 898,080	1 808,473
営業利益	452,659	728,910
営業外収益		
受取利息	79	14
受取配当金	38,058	40,622
受取駐車料	72,153	70,904
受取家賃	41,488	40,140
雑収入	91,088	101,126
営業外収益合計	242,869	252,808
営業外費用		
支払利息	134,846	126,397
雑支出	16,869	28,312
営業外費用合計	151,715	154,709
経常利益	543,813	827,009

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当事業年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	2 21,679	2 51,521
投資有価証券売却益	1,289	-
固定資産受贈益	196,871	-
特別利益合計	219,840	51,521
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	3 46	3 122,856
固定資産除却損	4 18,750	4 9,115
投資有価証券評価損	-	4,504
投資有価証券売却損	41,473	-
その他	-	13,670
特別損失合計	60,270	150,146
税引前当期純利益	703,383	728,384
法人税、住民税及び事業税	506,917	397,611
法人税等調整額	11,417	1,876,988
法人税等合計	495,500	1,479,376
当期純利益	207,883	2,207,761

【営業原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月 30日)		当事業年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月 30日)	
		金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
人件費					
給与手当		10,263,448		10,200,450	
賞与		560,764		678,152	
賞与引当金繰入額		533,982		735,101	
退職給付費用		606,805		542,127	
その他		2,712,011		2,814,912	
人件費合計		14,677,012	29.8	14,970,743	29.7
経費					
車両修繕費		1,186,818		1,087,718	
燃料油脂費		2,765,908		2,563,706	
備車料		10,234,502		10,638,281	
作業費及び取扱料		4,027,101		4,281,708	
施設使用料		1,573,854		1,569,844	
中継料		6,328,630		6,404,510	
減価償却費		1,140,477		1,334,129	
その他		7,332,668		7,619,520	
経費合計		34,589,962	70.2	35,499,420	70.3
営業原価合計		49,266,975	100.0	50,470,163	100.0

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					土地圧縮積立金	固定資産圧縮積立金	別途積立金
当期首残高	810,000	13,629	13,629	198,000	1,741,646	382,724	3,700,000
当期変動額							
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額						943	
固定資産圧縮積立金の取崩						26,503	
剰余金の配当							
当期純利益							
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	25,560	-
当期末残高	810,000	13,629	13,629	198,000	1,741,646	357,163	3,700,000

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
	繰越利益剰余金					
当期首残高	170,991	6,193,361	7,016,991	305,831	305,831	7,322,822
当期変動額						
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額	943	-	-			-
固定資産圧縮積立金の取崩	26,503	-	-			-
剰余金の配当	64,800	64,800	64,800			64,800
当期純利益	207,883	207,883	207,883			207,883
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				696	696	696
当期変動額合計	168,643	143,083	143,083	696	696	142,386
当期末残高	339,634	6,336,444	7,160,074	305,135	305,135	7,465,209

当事業年度(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	810,000	13,629	-	13,629
会計方針の変更による累積的影響額				
会計方針の変更を反映した当期首残高	810,000	13,629	-	13,629
当期変動額				
資本金から剰余金への振替	729,000		729,000	729,000
税率変更に伴う土地圧縮積立金の変動額				
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額				
固定資産圧縮積立金の取崩				
特別償却準備金の積立				
別途積立金の積立				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	729,000	-	729,000	729,000
当期末残高	81,000	13,629	729,000	742,629

	株主資本						
	利益準備金	利益剰余金					利益剰余金合計
		その他利益剰余金					
	土地圧縮積立金	固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	198,000	1,741,646	357,163	-	3,700,000	339,634	6,336,444
会計方針の変更による累積的影響額						215,047	215,047
会計方針の変更を反映した当期首残高	198,000	1,741,646	357,163	-	3,700,000	124,586	6,121,396
当期変動額							
資本金から剰余金への振替							
税率変更に伴う土地圧縮積立金の変動額		10,767				10,767	-
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額			2,208			2,208	-
固定資産圧縮積立金の取崩			25,592			25,592	-
特別償却準備金の積立				24,902		24,902	-
別途積立金の積立					100,000	100,000	-
剰余金の配当						48,600	48,600
当期純利益						2,207,761	2,207,761
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	10,767	23,384	24,902	100,000	2,046,876	2,159,161
当期末残高	198,000	1,752,413	333,779	24,902	3,800,000	2,171,463	8,280,558

	株主資本	評価・換算差額等		純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	7,160,074	305,135	305,135	7,465,209
会計方針の変更による累 積的影響額	215,047			215,047
会計方針の変更を反映し た当期首残高	6,945,026	305,135	305,135	7,250,161
当期変動額				
資本金から剰余金への 振替	-			-
税率変更に伴う土地圧 縮積立金の変動額	-			-
税率変更に伴う固定資 産圧縮積立金の変動額	-			-
固定資産圧縮積立金の 取崩	-			-
特別償却準備金の積立	-			-
別途積立金の積立	-			-
剰余金の配当	48,600			48,600
当期純利益	2,207,761			2,207,761
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		306,217	306,217	306,217
当期変動額合計	2,159,161	306,217	306,217	2,465,378
当期末残高	9,104,188	611,352	611,352	9,715,540

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

貯蔵品.....先入先出法による原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、賃貸用資産のうち東京物流センターの建物及び平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～47年

機械装置及び運搬具 2～17年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

ただし、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零(残価保証の取決めがある場合は残価保証額)とする定額法によっております。

(4) 長期前払費用

均等償却によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒に備え、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与に充てるため、実際支給予定額に基づく支給額対象期間基準で計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末に発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。



#### 数理計算上の差異及び会計基準変更時差異の費用処理方法

会計基準変更時差異(2,910,958千円)については、15年による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

#### (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当事業年度未要支給額を計上しております。

### 5 ヘッジ会計の方法

#### (1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについて特例処理の条件を満たしているため、特例処理を採用しております。

#### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金

#### (3) ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

#### (4) ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の条件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

### 6 その他財務諸表作成のための重要な事項

#### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び会計基準変更時差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

#### (2) 消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

#### (会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間に対応した複数の割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を繰越利益剰余金に加減しております。

この結果、当事業年度の期首の退職給付引当金が215,047千円増加し、繰越利益剰余金が215,047千円減少しております。また、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ31,738千円増加しております。

なお、当事業年度の1株当たり純資産額が13.27円減少し、1株当たり当期純利益金額は1.95円増加しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産

担保設定状況は次のとおりであります。

(前事業年度)

担保に供している資産		担保権によって担保されている債務	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
受取手形	1,331,533	短期借入金	5,750,000
建物	2,579,127	1年内返済長期借入金	1,866,900
土地	12,064,362	長期借入金	3,007,500
		関連会社の短期借入金	27,200
計	15,975,022	計	10,651,600

(当事業年度)

担保に供している資産		担保権によって担保されている債務	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
受取手形	1,336,535	短期借入金	4,300,000
建物	2,439,158	1年内返済長期借入金	1,667,800
土地	12,064,362	長期借入金	3,122,900
		関連会社の短期借入金	28,200
計	15,840,056	計	9,118,900

2 関係会社に対する債務

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
支払手形	470,566千円	444,922千円
営業未払金	1,155,602	1,080,346

3 偶発債務

(1) 下記の会社等の借入金に対して次のとおり債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
新潟運輸グループ協同組合	27,200千円	28,200千円
新潟流通センター運送事業協同組合	42,300	24,300
計	69,500	52,500

(2) 下記の会社の未払債務(鉄道コンテナ輸送料)に対して次のとおり債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
新潟通運株	20,560千円	20,591千円
長岡運輸株	16,276	17,905
上越運送株	4,700	4,908
巻運送株	22,867	25,954
計	64,405	69,360

(3) (前事業年度)

新潟運輸グループ協同組合の未払債務(有料道路料)の保証引受人に対し29,507千円、新潟流通センター運送事業協同組合の未払債務(有料道路料)の保証引受人に対し13,179千円保証を行っております。

(当事業年度)

新潟運輸グループ協同組合の未払債務(有料道路料)の保証引受人に対し31,518千円、新潟流通センター運送事業協同組合の未払債務(有料道路料)の保証引受人に対し16,433千円保証を行っております。

4 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメント契約を締結しております。

事業年度末における貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
貸出コミットメントの総額	4,000,000千円	4,000,000千円
貸出実行残高	4,000,000	3,000,000
差引額		1,000,000

(損益計算書関係)

1 (前事業年度)

営業原価、販売費及び一般管理費には、関係会社との取引高8,374,568千円が含まれております。

(当事業年度)

営業原価、販売費及び一般管理費には、関係会社との取引高8,339,479千円が含まれております。

2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当事業年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
車両運搬具	21,679千円	50,551千円
機械及び装置		969
計	21,679	51,521

3 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当事業年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
車両運搬具	46千円	157千円
建物		23,602
土地		146,300
計	46	122,856

当事業年度に建物と土地が一体となった固定資産を売却した際、建物部分については売却益、土地部分に行いでは売却損が発生しているため、売却損益を通算して固定資産売却損を計上しております。

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当事業年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
建物	8,910千円	1,843千円
構築物	5,356	3,239
機械及び装置	2,821	42
車両運搬具	13	21
工具、器具及び備品	1,591	2,096
借地権		110
電話加入権	56	1,761
計	18,750	9,115

(有価証券関係)

前事業年度(平成26年4月30日現在)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式154,381千円、関連会社株式130,647千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成27年4月30日現在)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式154,381千円、関連会社株式130,647千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

## 繰延税金資産(流動)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
賞与引当金	196,268千円	265,938千円
退職給付引当金	52,182	83,636
未払事業税	32,925	21,816
未払自動車税・労働保険料	8,797	8,917
未払法定福利費	28,099	38,377
未払車両事故費	43,821	12,326
貸倒引当金	16,320	2,539
一括償却資産	4,289	4,505
その他	1,487	6,128
計	384,191	444,185
評価性引当額	48,540	13,128
合計	335,651	431,056

## 繰延税金資産(固定)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
退職給付引当金	1,692,641千円	1,762,871千円
投資有価証券評価損	12,623	13,494
関係会社株式評価損	1,412	1,396
貸倒引当金	293	342
役員退職慰労引当金	58,490	57,590
減損損失	25,499	18,804
その他	8,453	6,930
計	1,799,413	1,861,429
評価性引当額	1,799,413	93,193
小計		1,768,236

## 繰延税金負債(固定)

租税特別措置法上の圧縮積立金	1,145,100	1,118,404
その他有価証券評価差額金	166,480	327,744
特別償却準備金		13,350
小計	1,311,580	1,459,499
合計	1,311,580	308,737

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
法定実効税率 (調整)	37.7%	35.3%
交際費等永久に損金算入されない項目	1.0%	0.4%
受取配当金等永久に益金算入されない項目	0.9%	0.8%
住民税均等割	2.8%	2.8%
評価性引当額	26.6%	238.9%
税率変更による期末繰延税金資産(負債)の 減額修正	3.1%	1.6%
税額控除による影響額	%	4.6%
その他	0.1%	1.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	70.4%	203.1%

## 3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

平成26年9月30日に資本金の額が81,000千円に減少したことにより、事業税率及び法人税率が変更となりました。また、「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以降に開始する事業年度から法人税率の引下げが行われることとなりました。

これらに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率が、平成27年5月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の35.3%から34.9%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は8,479千円減少し、法人税等調整額(借方)が12,235千円、その他有価証券評価差額金が3,756千円、それぞれ増加しております。

【附属明細表】  
【有価証券明細表】  
【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
投資有価証券	その他有価証券	(株)第四銀行	1,355,648	614,108
		亀田製菓(株)	102,593	500,144
		信越化学工業(株)	23,152	170,282
		(株)クラレ	62,334	101,356
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	18,471	96,824
		日本自動車ターミナル(株)	61,884	61,884
		(株)大光銀行	248,000	59,024
		(株)上組	37,204	44,607
		岩塚製菓(株)	5,000	35,750
		三菱自動車工業(株)	29,193	32,317
		(株)商工組合中央金庫	210,000	31,500
		(株)新潟国際貿易ターミナル	510	24,888
		日東紡績(株)	51,722	23,688
		ニチコン(株)	17,653	19,647
		(株)ブルボン	10,811	19,234
		(株)三越伊勢丹ホールディングス	7,344	14,276
		(株)仙台トラックターミナル	1,380	13,800
		東北高速道路ターミナル(株)	11,700	11,700
		(株)大和	50,358	11,632
		ダイニチ工業(株)	13,478	10,620
		(株)ブリヂストン	2,000	10,042
		東北電力(株)	6,080	9,162
		東京トラック運送(株)	2,065	8,934
		岩手トラックターミナル(株)	720	7,200
		セイノーホールディングス(株)	5,000	6,890
		東部運送(株)	133,332	6,666
		川西倉庫(株)	10,000	6,250
		(株)コロナ	5,317	6,163
		タキヒヨー(株)	12,960	6,143
		シャープ(株)	23,079	6,000
		北海道トラックターミナル(株)	5,438	5,438
		三協立山(株)	2,415	5,414
		(株)有沢製作所	4,392	4,409
		(株)新潟放送	6,000	3,960
		福山通運(株)	5,512	3,753
		立川ブラインド工業(株)	4,791	3,521
		日本トラック興業(株)	3,000	3,000
		(株)鶴見製作所	1,569	2,830
		ツインバード工業(株)	5,000	2,305
		トナミホールディングス(株)	5,000	2,165
		新潟日野自動車(株)	4,000	2,000
		(株)サンバーストにいがた	103	1,977
		新潟交通(株)	10,000	1,930
		(株)紫雲ゴルフ倶楽部	3	1,800
		北興化学工業(株)	3,339	1,472
		(株)ニューメディア	8	1,300
		ダイワボウホールディングス(株)	6,000	1,200
新日本海フェリー(株)	2,000	1,000		
(株)リンコーコーポレーション	5,000	895		
扶桑薬品工業(株)	2,875	894		
その他23銘柄	59,261	6,494		
		計	2,654,698	2,028,502

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	19,422,667	1,134,892	265,697	20,291,862	15,252,824	363,515	5,039,037
構築物	3,475,613	81,808	61,294	3,496,127	3,287,319	44,413	208,808
機械及び装置	685,707	20,143	7,203	698,647	554,555	82,638	144,092
車両運搬具	3,990,699	334,707	376,942	3,948,464	3,752,723	125,299	195,741
工具、器具及び備品	958,567	70,435	67,631	961,371	800,769	73,908	160,602
土地	16,180,301	2,914	194,117	15,989,097			15,989,097
リース資産	2,765,747	1,088,343	82,504	3,771,586	1,686,977	658,016	2,084,609
建設仮勘定		1,486,297	1,486,297				
有形固定資産計	47,479,303	4,219,544	2,541,689	49,157,158	25,335,169	1,347,792	23,821,988
無形固定資産							
借地権	451,506		110	451,395			451,395
ソフトウェア	115,204	51,082	34,412	131,874	61,168	24,097	70,706
電話加入権	27,410	284	2,046	25,648			25,648
施設利用権	12,240			12,240	9,402	1,843	2,837
無形固定資産計	606,362	51,366	36,569	621,159	70,571	25,941	550,588
長期前払費用	16,073	65,132	21,075	60,130	3,011	1,499	57,118

(注) 当期増減額の主たる内訳は下記のとおりであります。

	当期増加内訳		当期減少内訳		
建物	長岡パークタウン稲保倉庫 新築	1,024,398千円			
車両運搬具			貨物自動車	156台	343,187千円
リース資産	貨物自動車	138台	1,088,343千円		
建設仮勘定	長岡パークタウン稲保倉庫 新築	1,155,000千円			

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	62,135	41,475	23,876	32,140	47,594
賞与引当金	556,000	762,000	556,000		762,000
役員退職慰労引当金	165,695	17,854	18,533		165,016

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、洗替による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	5月1日から4月30日まで
定時株主総会	7月中
基準日	4月30日
株券の種類	1、5、10、50、100、500、1,000、10,000、100,000株券及び100株未満の数を表した株券
剰余金の配当の基準日	4月30日
1単元の株式数	該当なし
株式の名義書換え	
取扱場所	新潟市中央区女池北一丁目1番1号 新潟運輸株式会社 総務部
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
株券喪失登録	
株券喪失登録申請料	無料
株券登録料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	該当なし
株主名簿管理人	”
取次所	”
買取手数料	”
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	なし



## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第71期(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

平成26年7月30日関東財務局長に提出

#### (2) 半期報告書

事業年度 第72期中(自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)

平成27年1月29日関東財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

平成27年 7月29日

新潟運輸株式会社  
取締役会 御中

### 監査法人アリア

代表社員 業務執行社員	公認会計士	山 中 康 之
業務執行社員	公認会計士	古 屋 尚 樹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新潟運輸株式会社の平成26年5月1日から平成27年4月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新潟運輸株式会社及び連結子会社の平成27年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成27年7月29日

新潟運輸株式会社  
取締役会 御中

### 監査法人アリア

代表社員  
業務執行社員

公認会計士 山中 康之

業務執行社員

公認会計士 古屋 尚樹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新潟運輸株式会社の平成26年5月1日から平成27年4月30日までの第72期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新潟運輸株式会社の平成27年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。